OLYMPUS®

ボイストレック

DS-20

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、
製品を正しく安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる
ところに必ず保管してください。

失敗のない録音をするために
試し録りをしてください。

JP

目次

目次 2
安全に正しくお使いいただくために 4
使用上のご注意 7

1 ご使用になる前の準備

主な特長 8
各部のなまえ 11
電池を入れる 13
充電について 16
充電池について 19
電源について 20
日付・時刻（TIME & DATE）を合わせる ... 21

2 録音について

録音する 23
音声起動録音（VCVA）のしかた 26
録音モード（REC MODE）をかえる ... 28
マイク感度（MIC SENSE）をかえる .. 29
外部マイクや
　他の機器から録音する 30
タイマー録音（TIMER REC）を使う ... 32

3 再生について

再生する 36
再生スピード（PLAY SPEED）をかえる ... 41
連続再生（ALL PLAY）のしかた 43
リピート再生する 44
少し前再生（BACK SPACE）のしかた ... 46
スキップ間隔（SKIP SPACE）を
　設定する 47
ノイズキャンセルを設定する 49
アラーム再生（ALARM）を使う 50

4 その他の機能

消去する 53
誤消去を防止（LOCK）する 57
インデックスマークをつける 58
ディスプレイのコントラスト
　（CONTRAST）を調整する 60
バックライト（BACKLIGHT）について ... 61
ビープ音（BEEP）について 62
言語選択（LANGUAGE）のしかた 63
フォルダ名（FOLDER NAME）をつける ... 64
コメント（COMMENT）をつける 67
ファイルを移動する 68
誤操作を防止する－ホールド機能 69
ディスプレイ表示をかえる 70
初期化（FORMAT）する 72

5 メニュー設定について

メニューの設定のしかた 74
メニューの一覧 76

6 DSS Player をご使用になる前の準備

DSS Player を使う 78
パソコンの動作環境 79
ソフトウェアのインストール 81
ソフトウェアのアンインストール 85
オンラインヘルプの使いかた 87
パソコンに接続する 88
DSS Player を起動する 93
ウィンドウのなまえ（DSS Player）..... 95

7 パソコン上でファイルを管理する

録音した音声をパソコンに取り込む 96
ファイルを再生する 98
ファイルを本機に転送する 99
ファイルを E-mail で送信する 101
本機のユーザ ID を変更する 101
フォルダ名を変更する 102
コメントを編集する 102
テンプレートを編集する 103
USB マイク / スピーカとして使う 104

8 DSS Player の拡張機能

アップグレード機能 106
音声認識ソフトを使う 108
ファイルを結合する 113
ファイルを分割する 115
本機のメニューを設定する 117

9 USB クラスの設定

USB クラス（USB CLASS）の切り替え 118

10 その他の活用方法

パソコンの外部メモリとして使う 119

11 その他

警告表示一覧 120
故障かな？と思ったら 122
アクセサリー（別売）..... 124
用語の説明 125
主な仕様 126

安全に正しくお使いいただくために

ご使用前にこの取扱説明書をお読みになって、正しく安全にお使いください。
また、お読みになった後は、いつでも見られるように必ずお手元に保管してください。

- 安全に関する重要事項は、以下の表示と文章で示されます。あなたと他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、必ず守ってください。
- 表示の意味は、次のようになっています。

⚠警告
この表示は、「誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示します。

⚠注意
この表示は、「誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される」内容を示します。

この記号は、決してしてはいけない「禁止」内容を表しています。図または文章で具体的な禁止内容を示します。

この記号は、必ず実行していただく「強制」内容を表しています。

電池について

⚠警告

本機で指定されてない電池を使わないでください。

充電できないアルカリ電池、リチウム電池などを充電しないでください。

火の中への投入、加熱、⊕と⊖極間のショート、分解をしないでください。

古い電池と新しい電池、種類、メーカーの異なる電池を使わないでください。

電池の極性（⊕と⊖）を逆に入れないでください。
電池は、液漏れ、発熱、発火、破裂する恐れがあります。
- 表面の被覆の破れた電池を使わないでください。
- 長期間使用しない時は、必ず電池を取り出して保管してください。
- 使用済みの電池は接点部分にテープを貼って絶縁し、一般廃棄物として各自治体の指示にしたがって廃棄してください。
- 使えなくなった電池は速やかに本機から取り出してください。液漏れの恐れがあります。

⚠警告

電池は幼児・子供の手の届くところに置かないでください。
電池は幼児・子供が飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠警告

万一、使用中に異常な音がする、異常に熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、

① 火傷に注意しながら速やかに電池を抜いてください。

② お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理に出してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

本機について

⚠警告

分解、修理、改造をしないでください。
感電やケガの恐れがあります。

⚠警告

操作前から、音量を上げないでください。
聴覚障害、聴力低下を引き起こす恐れがあります。

車両（自転車、バイク、車など）の運転をしながら操作しないでください。
交通事故などの原因となります。

⚠警告

この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児、子供の近くで使用する時は細心の注意を払い、不用意に製品から離れないでください。幼児、子供には警告・注意の内容の理解ができませんし、加えて以下のような事故の恐れがあります。例えば

— 誤ってイヤホンコードを首に巻き付け、窒息する。

— 操作を誤りケガや感電事故などを起こす。

⚠警告

水に落としたり、内部に水や金属、燃えやすい異物が入ったら、

① 速やかに電池およびACアダプタを抜いてください。

② お買い上げ店またはオリンパスサービスステーションへ修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災や感電の危険があります。

⚠警告

航空機内や病院などで使用に制限のある場所でのご使用をお避けになるか、その場所の指示にしたがってください。

ソフトウェアについて

⚠警告

付属の CD-ROM を音楽用 CD プレーヤーで再生しないでください。

スピーカやヘッドホンを破損したり、聴力低下を引き起こす恐れがあります。

充電クレードル同梱仕様品について

充電クレードル同梱仕様品（DS-20F）には、本機の充電に必要な下記の製品も同梱されています。
ご使用前には「充電のしかた」を必ずお読みください。

- クレードル（充電機能付き）：CR4
- ニッケル水素充電池パック：BR402
- AC アダプタ：A511
- AC ケーブル
- 充電のしかた

なお、通常仕様品には上記製品は同梱されておりません。

使用上のご注意

- 直射日光下の車の中や夏の海岸など、高温・多湿の場所に放置しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- 水気がついたら、すぐに乾いた布で水分を拭き取りましょう。特に塩分は禁物です。
- 清掃する時、アルコールやシンナーなど、有機溶剤を使用しないでください。
- テレビ・冷蔵庫などの電気製品の上や近くに置かないでください。
- 砂や泥をかぶらないようにご注意ください。修理不可能なほどの故障になることがあります。
- 強い振動やショックを与えないでください。
- 水気の多い場所で使用しないでください。
- 磁気カード（銀行のキャッシュカードなど）をスピーカやイヤホンの近くに置くと、磁気カードに格納されたデータに異常が生じることがあります。

＜データ消失に関する注意事項＞

メモリへの記録内容は誤操作、機器の故障、修理などで破壊されたり消えることがあります。大切な記録内容はパソコンのハードディスク、MOなどのメディアにバックアップし保存されることをおすすめします。

Plus

本書内で左記アイコン記述のある場合、DSS Player Plusへのアップグレードが必要です。アップグレードに関しましてはP106をご覧ください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

OLYMPUS DSS Playerのソフトウェアおよび本取扱説明書の著作権はオリンパス株式会社及びオリンパスイメージング株式会社が所有しております。この製品を無断で複製したり、複製物を無断で配布したりすることは著作憲法により禁じられています。

ボイストレック（Voice -Trek）はオリンパス株式会社の登録商標です。

IBM、PC/AT、ViaVoiceは、International Business Machines Corporationの商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows MediaはMicrosoft Corporationの登録商標です。

Apple、Macintosh、iMac、Mac、PowerMacは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。

IntelおよびPentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

Voice一太郎は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

CORTOLOGICは、Ruwisch & Kollegen GmbHの商標です。

その他の本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

1 主な特長

本商品は以下のような特長を備えております。

- **本機にクレードルやUSB接続ケーブルを接続してパソコンへの高速データ転送を行うことができます。*1（☞ P88）**
- **クレードル経由で本機内のニッケル水素充電池パック（BR402）に充電できます。*1（☞ P16）**
- **本機はパソコンの外部メモリとしての活用もできます。（☞ P119）**
  - パソコンとUSB接続することで、画像やテキストデータなどを保存することができ、データの持ち運びなどにご利用いただけます。
- **フルドット表示のバックライト付き大型ディスプレイ（液晶表示パネル）を採用しています。（☞ P61）**
  - 録音した音声ファイルについてのさまざまな情報や操作に関するメッセージを、ひらがなや漢字など日本語で分かりやすく表示します。
- **録音した音声を高能率圧縮でデジタル変換し、DSS（Digital Speech Standard）形式やWMA（Windows Media Audio）形式のファイルとして記録します。*2**
- **内蔵ステレオマイクの採用により、ステレオHQ（ステレオ高音質録音）・ステレオSP（ステレオ標準録音）の2種類のステレオ録音モードと、HQ（高音質録音）・SP（標準録音）・LP（長時間録音）の3種類のモノラル録音モードが選択できます。*2（☞ P28）**

DS-20（128MB）の録音時間*3

ステレオHQ	約2時間10分
ステレオSP	約4時間20分
HQ	約8時間45分
SP	約20時間55分
LP	約44時間45分

- **オリジナルのフォルダ名が入力できます。（☞ P64）**
- **5つのフォルダにそれぞれ199件、合計で最大995件の音声ファイルが保存できます。（☞ P23）**
- **音声起動録音（VCVA）機能を搭載しています。（☞ P26）**

● **設定した時間に録音できるタイマー録音機能を搭載しています。(☞ P32)**

● **ファイルごとにコメントが入力できます。*4 (☞ P67)**
- 録音したファイルにはそれぞれ全角50文字（半角 100 文字）以内のコメントをつけることができます。
- 10 種類のテンプレート（ひな形）があらかじめ登録されています。

● **ノイズキャンセル機能を搭載しています。*4 (☞ P49)**
- Ruwisch & Kollegen GmbHのノイズ抑制技術により、ファイル中のノイズを軽減し、よりクリアな音質で再生します。

● **録音した音声ファイルを別のフォルダに移動させることができます。(☞ P68)**

● **インデックスマークの記録と消去が可能です。*4 (☞ P58)**
- ファイル内の聞きたい位置をスピーディに探せるように、録音中または再生中にインデックスマークをつけることができます。

● **再生スピードをお好みに合わせてコントロールできます。(☞ P41)**

● **設定した間隔で、早送りや早戻しができます。(☞ P47)**

● **専用ソフトウェアの「DSS Player」を付属しています。(☞ P78)**
- 本機で録音した音声ファイルをパソコンに転送すれば、再生や整理、編集などが簡単に行えます。
- パソコンにつないでUSB マイクやUSB スピーカとしてもご使用になれます。**(☞ P104)**

● **「DSS Player」はより高い機能を備えた「DSS Player Plus」にアップグレード（有償）することが可能です。(☞ P106)**
- 市販の音声認識ソフトを利用すれば、録音した音声ファイルを文字に自動変換できます。*5 **(☞ P108)**
- 「DSS Player」の機能に加え、ファイルの結合や分割、本機のメニュー設定の変更などが行えます。

*1：通常仕様品にクレードル（CR4）やニッケル水素充電池パック（BR402）は同梱されておりません。クレードルを使ってデータ転送や充電を行う場合は、「充電クレードルセット(CR400)」を別途ご購入ください。(☞P124)

*2：SP・LPモード録音時はDSS形式、ステレオHQ・ステレオSP・HQモード録音時はWMA形式になります。

*3：1つのファイルを連続で録音した場合の録音可能時間です。小刻みに録音を繰り返した場合は、録音可能時間がこれより短くなることがあります。（録音可能時間および録音時間表示はめやすとしてお使いください）

*4：WMA形式のファイルについては、本機またはオリンパス製ICレコーダーで録音したファイルに限りこれらの機能をお使いになることができます。

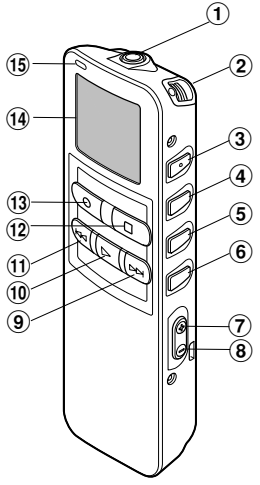
*5：比較的静かな環境の中、本機をステレオHQ、ステレオSP、HQモード、SPモードに設定し、音声認識ソフトに音声登録した1人の人が一定した話しかたで録音する必要があります。

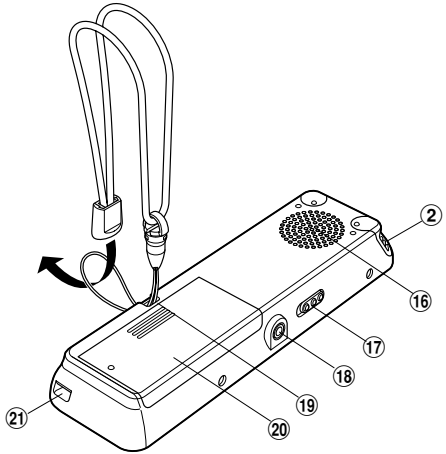
次のような状況で録音した音声ファイルは認識率が低く、文字変換には不向きです。

— 複数の人の声が録音される、会議や座談会など

— まわりの雑音も録音されやすい、講演会や講義など

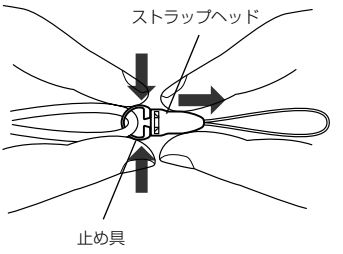
各部のなまえ





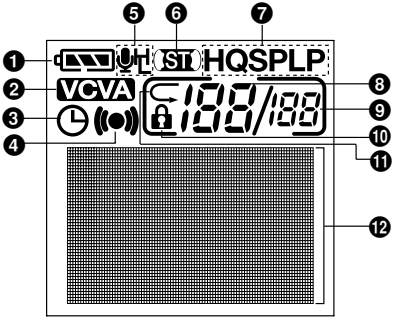
① マイクジャック
② 内蔵ステレオマイク
③ インデックス／▲ ボタン
④ 表示／メニュー／決定ボタン
⑤ フォルダ／リピート／▼ ボタン
⑥ 消去ボタン
⑦ VOL（＋）ボタン
⑧ VOL（－）ボタン
⑨ 早送りボタン
⑩ 再生ボタン
⑪ 早戻しボタン
⑫ 停止ボタン
⑬ 録音ボタン
⑭ ディスプレイ（液晶表示パネル）
⑮ 録音／再生表示ランプ
⑯ 内蔵スピーカ
⑰ ホールドスイッチ
⑱ イヤホンジャック
⑲ ネックストラップ取り付け部
⑳ 電池ぶた
㉑ クレードル接続端子／パソコン接続（USB）端子

ネックストラップについて



ネックストラップ（同梱）はストラップヘッド部分の取り外しが可能です。
止め具を図のように押しながら、ストラップヘッドを引き抜きます。

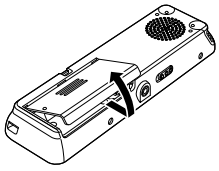
ディスプレイ



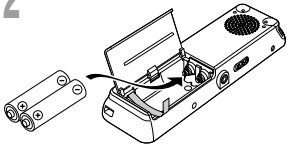
❶ 電池残量表示
❷ 音声起動録音（VCVA）表示
❸ タイマー録音表示
❹ アラーム表示
❺ マイク感度表示
❻ ステレオ表示
❼ 録音モード表示
❽ ファイル番号
❾ フォルダ内総ファイル数
❿ 消去ロック表示
⓫ リピート再生表示
⓬ 情報、警告表示部

電池を入れる

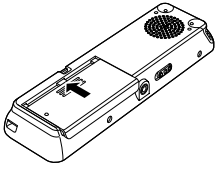
1



2



3



単４形アルカリ電池

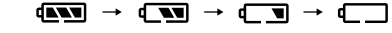
1 矢印部分を軽く押しながら、電池ぶたをスライドさせて開ける

2 単4形アルカリ電池(2本)の⊕と⊖を正しい向きで入れる

3 電池ぶたを完全に閉める

電池交換のめやす

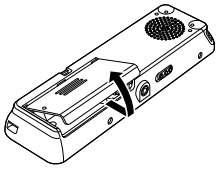
電池の残量に応じてディスプレイの電池残量表示が次のようにかわります。

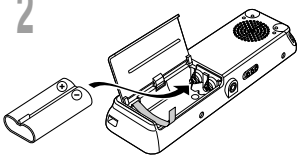


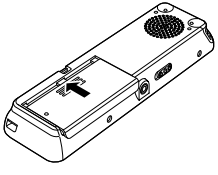
ディスプレイに マークが表示されたら、早めに新しい電池に交換してください。
電池がなくなると、ディスプレイに「電池残量がありません」と表示され、動作が停止します。交換の際は単４形アルカリ電池の使用をおすすめします。

ご注意

- 電池の交換は必ず本機を停止状態（☞ P125）にしてから行ってください。
  本機が録音、消去などの動作中に電池を抜くと、ファイルが再生できなくなる恐れがあります。
- 電池を交換するときは、必ず２本とも新しい電池に交換してください。
- 1 分以上電池を抜いたときは、再び電池を入れた際に時刻の設定が必要になることがあります（☞ P21）。
- 長期間本機をご使用にならない場合は電池を取り外してください。







ニッケル水素充電池パック（BR402）

1 矢印部分を軽く押しながら、電池ぶたをスライドさせて開ける

2 ニッケル水素充電池パック(BR402)を図の向きで入れる

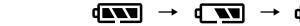
充電池は電極のある平らな面が下になるように入れてください。また、本機に示されている⊕⊖の向きは、単4形アルカリ電池をご使用の場合に限りますのでご注意ください。

3 電池ぶたを完全に閉める

ご購入後初めてお使いになる場合は充電が必要です(☞P16)。

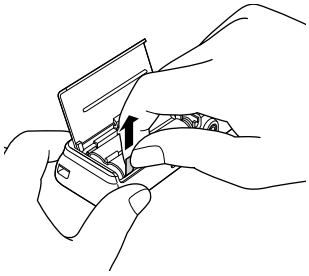
充電のめやす

充電池の残量に応じてディスプレイの電池残量表示が次のようにかわります。



ディスプレイに マークが表示されたら、早めに充電してください。

電池がなくなると、ディスプレイに「電池残量がありません」と表示され、動作が停止します。



充電池を外す

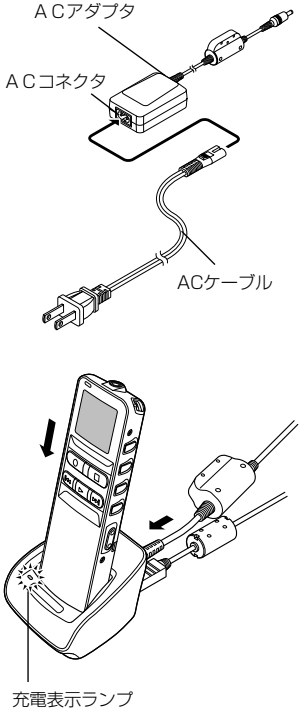
図のようにテープを引き上げると簡単に取り外すことができます。

ご注意

- 本機が録音、消去などの動作中に充電池を抜くと、ファイルが再生できなくなる恐れがあります。充電池を抜く場合は必ず本機を停止状態（☞ P125）にしてから行ってください。
- 1 分以上充電池を抜いたときは、再び電池を入れた際に時刻の設定が必要になることがあります（☞ P21）。
- 充電は本機の動作完了後に行ってください。
- 長期間本機をご使用にならない場合は充電池を取り外してください。

充電について

クレードルにACアダプタまたはUSB接続ケーブルが接続された状態で本機を置くと、本機内の充電池に充電を行うことができます。
ご購入後に初めてご使用になる場合は充電が必要です。
通常仕様品にクレードル（CR4）やニッケル水素充電池パック（BR402）は同梱されておりません。充電を行う場合は、「充電クレードルセット（CR400）」を別途ご購入ください（☞P124）。



1 クレードルにACアダプタまたはUSB接続ケーブルを接続する

USB接続ケーブルでの充電（USB充電）

USB接続ケーブルをパソコンに接続することで、パソコンから電力供給され充電が行われます。この場合、USB充電設定が「ON」であることを確認してください（☞P18）。
接続方法については☞ P91をご覧ください。

ACアダプタでの充電

充電にACアダプタを使用する場合、ACアダプタを接続してください。

USB接続ケーブルとACアダプタの両方が接続されている場合は、ACアダプタの電力で充電を行います。

2 本機が停止状態であることを確認し、本機をクレードルにセットする

クレードルの充電表示ランプが赤く点灯し、充電が開始されます。充電が終了すると充電表示ランプは消灯します。

充電時間

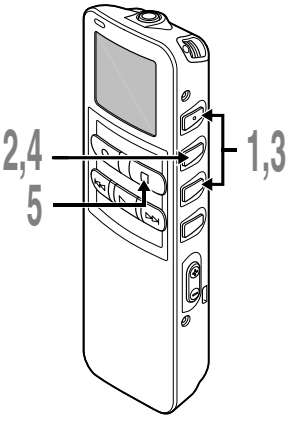
USB充電：約3時間
ACアダプタ充電：約1時間40分

ご注意

- ご購入後初めてご使用になる場合は、数回の放充電を行ってください。
- オリンパス製ニッケル水素充電池パック（BR402）以外の充電はできません。
- 充電完了後すぐに充電を行うと、再度十数分間だけ充電します。
- USB 接続ケーブルで充電を行う場合は、必ずパソコンの電源を入れてください。
- USB接続ケーブルは、必ずパソコン本体のUSBポートまたはセルフパワー（ACアダプタ接続）のUSBハブに接続してください。
- 充電中でも本機は通常通り動作可能です。ただし、USB接続ケーブルで充電中にオーディオクラス（☞P118）に切り替えると、充電が停止します。
- 本機が動作中、クレードルからの本機の抜き差しはしないでください。

USB 充電について

パソコンからの電力供給を行いたくない場合は、USB充電設定を「OFF」にする必要があります。その場合は、下記の手順で設定を行ってください。



1 サブメニュー画面で▼または▲ボタンを押して「USB充電」を選ぶ

サブメニューについては☞ P75、77をご覧ください。

2 決定ボタンを押す

USB充電の設定を始めます。

3 ▼または▲ボタンを押して「OFF」を選ぶ

初期設定は「ON」に設定されています。「ON」設定時はパソコンからUSB接続ケーブル経由で充電(USB充電)されます。ただしACアダプタ接続時はACアダプタから電力が供給されます。

4 決定ボタンを押して設定を完了する

5 停止ボタンを押してサブメニュー画面を終了する

充電池について

ニッケル水素充電池パック（BR402）は本機専用の充電池です。他の機器には絶対に使用しないでください。ご使用の際には下記をよくお読みください。
なお、通常仕様品にクレードル（CR4）やニッケル水素充電池パック（BR402）は同梱されておりません。充電を行う場合は、「充電クレードルセット（CR400)」を別途ご購入ください。（☞ P124）

放　電

充電池は、使用しないと自然に放電します。ご使用の前には、必ず充電するようにしてください。

電池寿命

ご使用状況によりますが、約500回程度の放充電が可能です。

操作温度

充電池は化学製品です。推奨温度範囲で使用する場合にも充電池の性能は変化しますが、故障ではありません。

使用時の推奨温度範囲

放電（機器使用時）：0～50℃
充電：0～40℃
保管：－20～30℃

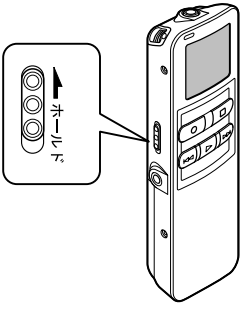
上記の温度範囲外での充電池の使用は、性能・寿命の低下の原因となります。
長期間本機をご使用にならない場合は、液漏れ・さびを防ぐために、充電池を取り外して保管してください。

ご注意

- ニッケル水素充電池自体の性質上、新しく購入した電池や長期間（1 カ月以上）使用していない電池は、充電が完全にされない場合があります。この場合は放充電を 2、3 回くり返してください。
- 充電池は、関係する法令にしたがって処分してください。充電池を完全に放電しないで処分する場合は、ショートしないように電池端子をテープで絶縁するなどの処置をしてください。

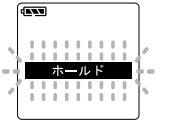
電源について

本機をお使いにならないときは、ホールドにすることで本機の電源が切れた状態になり、電池の消耗を最小限に抑えることができます。
電源を切っても既存のデータや各モードの設定、時計設定などは保持されます。電源を入れるときは、ホールドスイッチを解除してください。



電源を切る

本機が停止中にホールドスイッチをホールドにする
「ホールド」を2秒間点滅表示後、ディスプレイが消灯します。



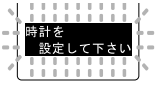
電源を入れる

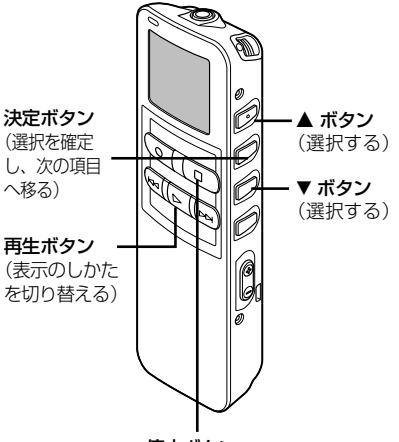
本機のホールドスイッチを解除する

日付・時刻（TIME & DATE）を合わせる

日付と時刻を設定しておくと、「いつ録音した」という情報がファイルごとに自動で記録されます。録音したファイルの管理を容易にするために、あらかじめ設定しておくことをおすすめします。またタイマー録音（☞ P32）やアラーム再生（☞ P50）を行うときに必要です。

ご購入後初めてお使いになるときや、長い間お使いにならないで電池を入れたときは、「時計を設定して下さい」と表示されます。「時」表示が点滅したら、次の手順から設定をしてください。





1 「時」を設定する

① ▼または▲ボタンを押して「時」を設定します。
② 決定ボタンを押して、「時」を確定します。

- 時、分の設定中、再生ボタンを押すたびに、12時間表示と24時間表示が切り替わります。

（例）午後5時45分の場合
PM5時45分 ⟷ 17時45分
＜初期設定＞

2 「分」を設定する

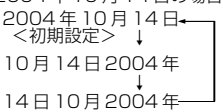
① ▼または▲ボタンを押して「分」を設定します。
② 決定ボタンを押して、「分」を確定します。

3 「年」を設定する

① ▼または▲ボタンを押して「年」を設定します。
② 決定ボタンを押して、「年」を確定します。

- 年、月、日の設定中、再生ボタンを押すたびに「年」「月」「日」表示の順序が切り替わります。

（例）2004年10月14日の場合



4 「月」を設定する

①▼または▲ボタンを押して「月」を設定します。

②決定ボタンを押して、「月」を確定します。

5 「日」を設定する

①▼または▲ボタンを押して「日」を設定します。

②決定ボタンを押して、「日」を確定し、設定を完了させます。

6 停止ボタンを押す

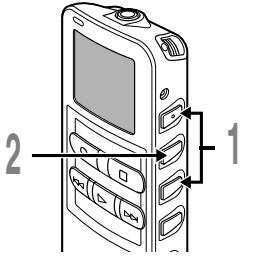
メニュー画面を終了します。

「日」を確定したときから本機の時計が動き始めます。時報などに合わせて再生ボタンを押してください。

ご注意

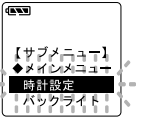
設定の途中に停止ボタンを押すと、それまでに確定した項目が設定され時計が動き始めます。

日付・時刻の設定をかえるには



1 サブメニュー画面で▼または▲ボタンを押して「時計設定」を選ぶ

サブメニューについては☞ P75、77をご覧ください。



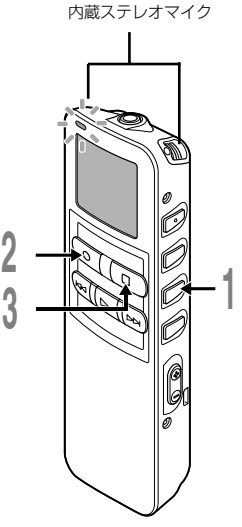
2 決定ボタンを押す

「時」表示が点滅し、日付・時刻の設定を始めます。

以下は「日付・時刻を合わせる」の手順1（☞ P21）からと同じです。

録音する

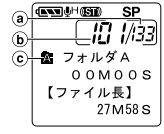
本機には A B C D E の5つのフォルダがあり、各フォルダに録音した音声は1件ごとに「ファイル」として保存されます。A フォルダはプライベート用、B フォルダはビジネス用といったように、録音する内容によって使い分けると便利です。また各フォルダは区別しやすいように名前をつけることができます（☞ P64）。各フォルダごとに最大199件の用件を録音できます。



1 フォルダボタンを押してフォルダを選ぶ

フォルダ名が表示されます。

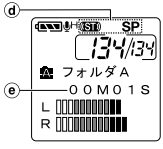
ⓐ フォルダ内に録音済みのファイル総数
ⓑ 現在のファイル番号
ⓒ 現在のフォルダ名



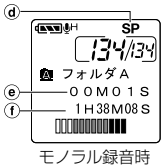
2 録音ボタンを押して録音を開始する

録音／再生表示ランプが赤く点灯します。録音したい方向に内蔵ステレオマイクを向けます。ディスプレイの表示は録音モード（☞ P28）により異なります。

ⓓ 現在の録音モード
ⓔ 現在の録音時間
ⓕ 録音可能な残り時間



ステレオ録音時表示画面



モノラル録音時表示画面

3 停止ボタンを押して録音を止める

ディスプレイの表示パターンをかえることができます（☞ P70）。本書でのディスプレイ表示は初期の状態を示します。

ご注意

- 頭切れを防ぐために、録音／再生表示ランプの点灯を確認してから録音を行ってください。
- 録音中に録音可能な残り時間が 60 秒、30 秒、10 秒になったときに、警告音が鳴ります。
- ディスプレイに「メモリがいっぱいです」や「これ以上記録できません」と表示されたときは、メモリやファイル件数がいっぱいです。不要なファイルを消去してから録音をしてください（☞ P53）。
- DSS Player を使うとファイルをパソコンに転送して保存しておくことができます（☞ P96）。
- ステレオ録音はステレオ HQ、ステレオ SP モード設定時のみ可能です。

録音に関する操作

一時停止する

録音中に**録音**ボタンを押します。

➥ ディスプレイの「録音ポーズ中」が点滅します。

- 録音一時停止のまま 120 分以上過ぎると停止状態になります。

一時停止を解除する

録音ボタンをもう一度押します。

➥ 一時停止したところから録音を再開します。

録音内容をすばやく確認する

録音中に**再生**ボタンを押します。

➥ 録音を中断し、今録音したファイルが再生されます。

録音に関する設定

ご購入後すぐに標準的なステレオ録音ができるようにステレオ SP モードが設定されていますが、ほかにも高音質なステレオ録音ができるステレオHQモードや、モノラル録音のHQ、SP、LPモードが設定できます。状況に応じた録音モードをお選びください。また本機は、メモリの節約ができる音声起動録音機能やマイク感度も設定できます。詳しくは下記のページを参照してください。

録音モード：ステレオ HQ (ステレオ高音質録音) モード /
ステレオ SP（ステレオ標準録音）モード /
HQ (高音質録音) モード /
SP (標準録音) モード /
LP (長時間録音) モード /
（☞ P28）

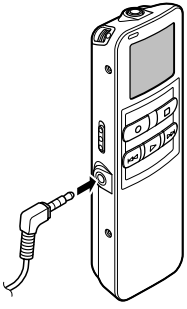
マイク感度：会議 / 口述（☞ P29）

音声起動録音：OFF/ON（☞ P26）
(VCVA)

タイマー録音：OFF/ON（☞ P32）

録音中の音声を聞くとき（録音モニター）

イヤホンを本機のイヤホンジャックに差し込むと、録音中の音声を聞くことができます。録音モニターの音量はVOL（＋）またはVOL（－）ボタンを押して調節できます。



本機のイヤホンジャックにイヤホンを接続する

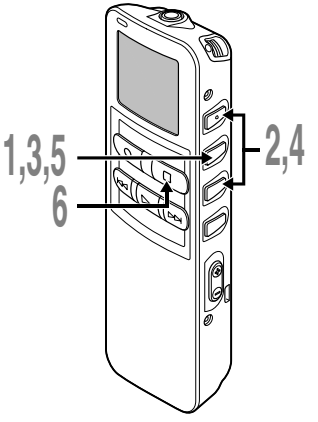
録音を開始すると録音中の音声をイヤホンで聞くことができます。イヤホンを接続すると、スピーカから音は出ません。

ご注意

- 音量を変えても録音レベルは変化しません。
- 耳への刺激を避けるため、音量を0にしてからイヤホンを入れてください。

音声起動録音（VCVA）のしかた

音声起動録音（VCVA）とは、設定した起動感度よりも大きな音声を感知すると自動的に録音が始まり、音声が小さくなると自動的に録音を一時停止する機能です。
会議中の長い沈黙などを自動的にカットして録音することによりメモリを節約することができます。



1 メニューボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります（☞P74、76）。

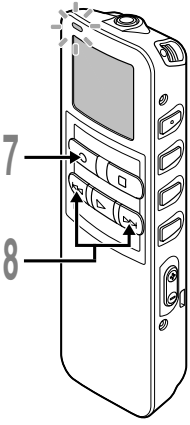
2 ▼または▲ボタンを押して「VCVA」を選ぶ

3 決定ボタンを押す
VCVAの設定を始めます。

4 ▼または▲ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ
ON…以降は音声起動録音になります。
OFF…通常の録音に戻ります。

5 決定ボタンを押して設定を完了する

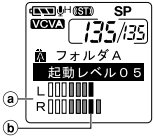
6 停止ボタンを押してメインメニュー画面を終了する
「ON」を選択したときはディスプレイのVCVA表示が点灯します。



7 録音ボタンを押して録音を開始する

設定した起動感度より音が小さくなると約1秒後に自動的に録音が一時停止します。このときディスプレイに「待機中」が点滅します。録音起動中は録音／再生表示ランプが赤く点灯し、一時停止すると点滅します。

8 録音中に早送りまたは早戻しボタンを押してVCVAの起動レベルを調節する



ディスプレイにVCVA起動レベルが15段階（1～15）で表示されます。数字が大きくなるほどVCVAの起動感度は高くなり、小さな音でも録音が始まるようになります。

ⓐ **レベルメータ**（録音音量に合わせて変化します）

ⓑ **起動レベル**（設定レベルに応じて左右に動きます）

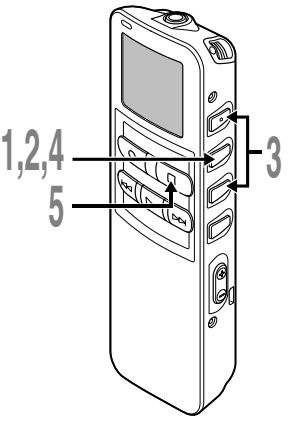
ディスプレイの表示パターンをかえることができます（☞P70）。本書でのディスプレイ表示は初期の状態を示します。

ご注意

- 起動レベルは設定されているマイク感度によっても異なります（☞P29）。
- 起動レベルの調節は５秒以内に行わないと表示が元に戻ります。
- まわりの雑音が大きいなど、録音状況に応じて VCVA の起動感度を調節することができます。
- 失敗のない録音を行うために、事前に試し録音で起動感度を調節することをおすすめします。

録音モード（REC MODE）をかえる

録音モードは、ステレオHQ（ステレオ高音質録音）、ステレオSP（ステレオ標準録音）、HQ（高音質録音）、SP（標準録音）、LP（長時間録音）から選ぶことができます。



1 メニューボタンを1秒以上押す
ディスプレイに「録音モード」が表示されます（☞ P74、76）。

2 決定ボタンを押す
録音モードの設定を始めます。

3 ▼または▲ボタンを押して「ステレオHQ」「ステレオSP」「HQ」「SP」「LP」を選ぶ

4 決定ボタンを押して設定を完了する

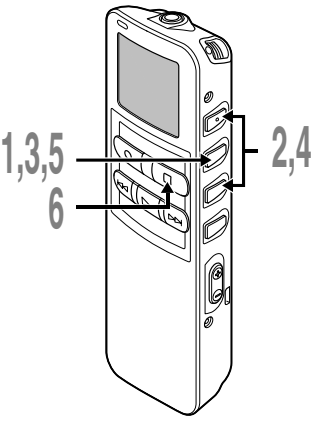
5 停止ボタンを押してメインメニュー画面を終了する

ご注意

- 会議や講演会などをはっきりと録音したい場合は、LPモード以外に設定して録音してください。
- ステレオHQ、ステレオSPモードでマイクジャックにモノラルマイクを挿入して録音した場合、Lチャンネルのみに音声が録音されます。

マイク感度（MIC SENSE）をかえる

使用目的に合わせて内蔵ステレオマイクの感度を切り替えることができます。



1 メニューボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります（☞P74、76）。

2 ▼または▲ボタンを押して「マイク感度」を選ぶ

3 決定ボタンを押す
マイク感度の設定を始めます。

4 ▼または▲ボタンを押して「会議」か「口述」を選ぶ

会議…周囲の音も録音できる高感度モードです。
口述…口述録音に適した通常感度モードです。

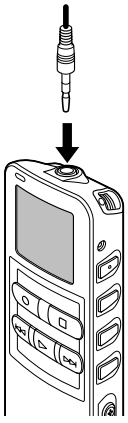
5 決定ボタンを押して設定を完了する

6 停止ボタンを押してメインメニュー画面を終了する

ご注意
話し手の声をはっきりと録音したい場合は口述モードにして、本機の内蔵ステレオマイクを話し手の口に近づけて（5～10cm）録音してください。

外部マイクや他の機器から録音する

外部マイクや他の機器を接続し、音声を録音することができます。お使いになる機器により、次のように接続してください。



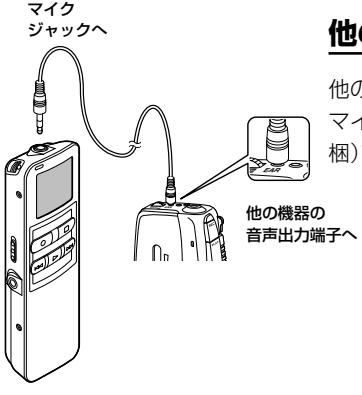
外部マイクで録音する

本機のマイクジャックに外部マイクを接続する

本機のマイクジャックに外部マイクをつなぐと、内蔵マイクは動作しなくなります。

ご使用いただける外部マイク

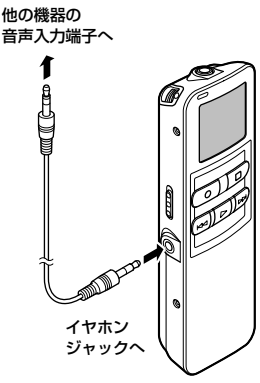
- **単一指向性モノラルマイクロホン：ME12（別売）**
  周囲の雑音の影響を軽減して、ご自身の声を録音したい場合に使用します。
- **ステレオマイクロホン：ME51SW（別売）**
  ステレオならではの臨場感のある録音ができます。しかもWMA形式でノイズの少ないクリアな音質が得られます。ステレオ録音はステレオHQ、ステレオSPモード設定時のみ可能です。



他の機器の音声を本機で録音する

他の機器の音声出力端子（ステレオミニプラグ）と本機のマイクジャックをダビング用コネクティングコード（同梱）でつなぐと、その音声を録音できます。

本機の音声を他の機器で録音する



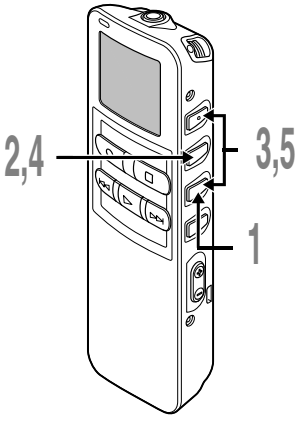
他の機器の音声入力端子（ステレオミニプラグ）と本機のイヤホンジャックをダビング用コネクティングコード（同梱）でつなぐと、本機の音声を他の機器へ録音できます。

ご注意

- 本機と他の機器の接続は同梱のダビング用コネクティングコード（KA333）で行ってください。
- 本機では入力レベルの調節はできません。外部機器を接続するときは試し録音をして、外部機器の出力レベルを調節してください。
- 本機から電源の供給を受けるプラグインパワー対応のマイクもご使用になれます。
- 本機のジャックへの抜き差しは、録音中に行わないでください。
- HQ、SP、LPモード設定中に外部マイクを挿入した場合、Lチャンネルマイクのみでの録音になります。
- ステレオＨＱ、ステレオＳＰモードでマイクジャックにモノラルマイクを挿入した場合、Lチャンネルのみに音声が録音されます。

タイマー録音（TIMER REC）を使う

タイマー録音とは設定した時間に録音を行う機能です。



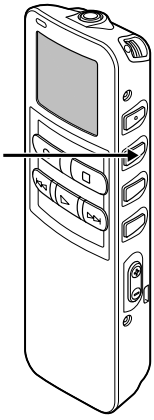
1 フォルダボタンを押して録音するフォルダを選ぶ

2 メニューボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります（☞P74、76）。

3 ▼ または▲ ボタンを押して「タイマー録音」を選ぶ

4 決定ボタンを押す
タイマー録音の設定を始めます。

5 ▼または▲ボタンを押して「ON」を選ぶ
ここで「OFF」を選び決定ボタンを押すと、タイマー録音が解除され、メインメニュー画面に戻ります。



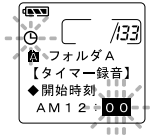
6 決定ボタンを押す

開始時刻の設定を始めます。

7 開始時刻を設定する

① ▼または▲ボタンを押して「時」を設定します。
② 決定ボタンを押して「時」を確定します。

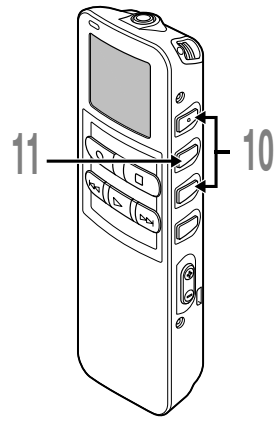
③ ▼または▲ボタンを押して「分」を設定します。
④ 決定ボタンを押して「分」を確定すると、終了時刻の設定に移ります。



8 終了時刻を設定する

① ▼または▲ボタンを押して「時」を設定します。
② 決定ボタンを押して「時」を確定します。

③ ▼または▲ボタンを押して「分」を設定します。
④ 決定ボタンを押して「分」を確定すると、録音モードの設定に移ります。



9 録音モードを設定する

① ▼または▲ボタンを押して録音モードを設定します。

② 決定ボタンを押して録音モードを確定します。

録音モード確定時に予約した時間にメモリ残量が足りない場合、「メモリー不足です 設定を続けますか」と表示されます。▼または▲ボタンを押して「続ける」または「戻る」を選んでください。

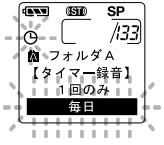
続ける…このまま設定を続けます。タイマー録音中にメモリ残量がなくなると、録音が終了します。

戻る…手順5に戻ります（ディスプレイに「ON」が点滅します）。

10 ▼または▲ボタンを押して「1回のみ」または「毎日」を選ぶ

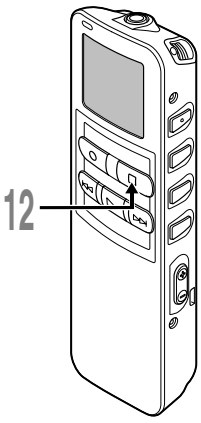
1回のみ…設定時刻で1回のみ録音します。

毎日…設定時刻で毎日継続して録音します。



11 決定ボタンを押して設定を完了する

継続期間、設定時刻、タイマー表示（◷）が5秒間表示します。

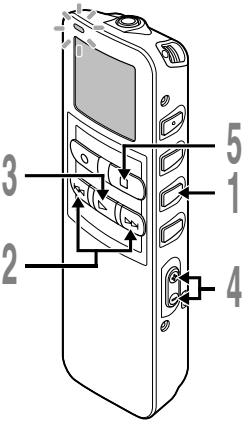


12 **停止**ボタンを押してメインメニュー画面を終了する

ご注意

- タイマー録音の開始時刻に本機を操作していたり、本機が動作中の場合は、終了後にタイマー録音を開始します。
- ホールドになっていても、タイマー録音の設定時刻になると録音を始めます。
- タイマー録音を設定した時刻にアラーム再生が設定されていても録音を開始します。ただし、開始時刻と終了時刻が同じ場合は録音されません。
- タイマー録音中に電池がなくなると録音が中断しますので、電池残量を確認してください。

再生する



1 フォルダボタンを押してフォルダを選ぶ

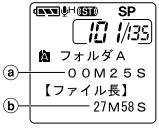
2 早送りまたは早戻しボタンを押して再生したいファイルを選ぶ

早送りまたは早戻しボタンを押し続けると、連続してファイルの頭出しをします。

3 再生ボタンを押して再生を開始する

録音／再生表示ランプが緑色に点灯します。

ⓐ **再生中のファイルの経過時間**
ⓑ **再生中のファイルのトータル時間**



4 VOL(＋)またはVOL(－)ボタンを押して聞きやすい音量にする

ディスプレイにボリュームレベルが31段階(0～30)で表示されます。

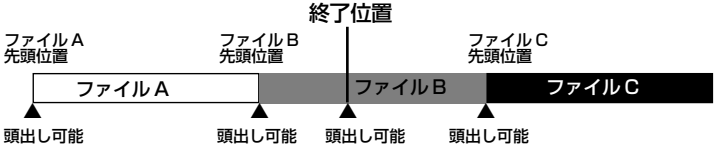
5 停止ボタンを押して再生を停止する

再生していたファイルの途中で停止します。再生ボタンを押すと、停止していたところから再生を開始します。

ディスプレイの表示パターンをかえることができます（☞P70）。本書でのディスプレイ表示は初期の状態を示します。

再生終了位置のセーブ機能

再生中に停止ボタンを押してファイルの途中で停止した場合、その停止位置が自動的に記憶されます。 早送りまたは早戻しボタンで他のファイルに移動した場合でも、早送りまたは早戻しボタンの操作で、簡単に記憶された停止位置に戻ることができ、前回中断したところから再生を再開できます。早送りまたは早戻しボタンで停止位置に戻ると、ディスプレイには「前回再生終了位置」と表示されます。



ご注意

再生終了位置は、再生・録音・PC 接続・フォルダの切り替え・ファイル消去・電池の抜き挿しを行うと消去されます。

その他の操作	操作	解除方法
早聞き 遅聞き*1	再生中に再生ボタンを押す*1 ➥ 設定された速さで再生します。再生スピードは 0.5 倍から 2.0 倍の間で設定することができます（☞ P41）。	再生ボタンを押す ➥ 通常の再生に戻ります。
早送り （CUE）	再生中に早送りボタンを押し続ける*2 ➥ ファイルの終わりまで進むといったん停止します。さらに早送りボタンを押し続けると、次のファイルの先頭から早送りを続けます。*3	早送りボタンから手を離す ➥ 元の速さで再生します。
早戻し （REVIEW）	再生中に早戻しボタンを押し続ける*2 ➥ ファイルの先頭まで戻るといったん停止します。さらに早戻しボタンを押し続けると、前のファイルの終わりから早戻しを続けます。*3	早戻しボタンから手を離す ➥ 元の速さで再生します。
頭出し*4	再生中、早聞き・遅聞き中に早送りボタンを押す ➥ 次のファイルの頭出しをして、元の速さで再生を始めます。*5	———
	再生中、早聞き・遅聞き中に早戻しボタンを押す ➥ 再生中のファイルの頭出しをして、元の速さで再生を始めます。*5	
	再生中、早聞き・遅聞き中に早戻しボタンを 2 回押す ➥ 1 つ前のファイルの頭出しをして、元の速さで再生を始めます。*5	
設定時間分の 早送り*6 早戻し*6 *7	再生中、早聞き・遅聞き中に早送りボタンを押す ➥ 再生中のファイルを設定した時間分だけ先に進んで、元の速さで再生を始めます。*8	———
	再生中、早聞き・遅聞き中に早戻しボタンを押す ➥ 再生中のファイルを設定した時間分だけ前に戻って、元の速さで再生を始めます。*8 *9	

*1 早聞き・遅聞き再生時も通常再生と同じように、上記の操作やインデックスマーク（☞ P58）の挿入ができます。
*2 停止中に早送りまたは早戻しボタンを押し続けると、連続してファイルの開始位置や前回再生終了位置（☞ P37）の頭出しを行います（スキップ／逆スキップ）。
*3 ファイルの途中にインデックスマークがついているときは、インデックスマークの位置でいったん停止します。
*4 メニュー設定で、スキップ間隔がファイルスキップに設定されている場合（☞ P47）。初期設定ではファイルスキップに設定されています。
*5 ファイルの途中にインデックスマークがついているときは、インデックスマークの位置で再生を始めます。
*6 メニュー設定でスキップ間隔がファイルスキップ以外に設定されている場合。
*7 メニュー設定で少し前再生が「OFF」に設定されている場合（☞ P46）。
*8 設定した時間よりも前にインデックスマークがついているときは、インデックスマークの位置で再生を始めます。
*9 スキップ間隔と少し前再生の両方が設定されている場合は、少し前再生の設定時間だけ前に戻ります。

ご注意

- ノイズキャンセル機能（☞ P49）を「LOW」または「HIGH」に設定すると、再生スピードの設定はできません。
- 少し前再生を設定すると、早戻しボタンを押しても頭出しやインデックスマークの位置にはスキップしません。

最終ファイルエンド

再生中に下記の操作を行って最終ファイルの終りまで到達した場合、ディスプレイに「最終ファイルエンド」が５秒間点滅表示されます。

・早送りボタンを押す（スキップ）
・早送りボタンを押し続ける（CUE）
・最終ファイルを再生

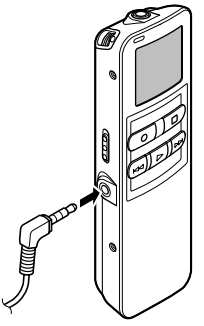
「最終ファイルエンド」点滅表示中に早送りまたは早戻しボタンを操作して下記の動作をおこなうことができます。

操作
早戻しボタンを押し続ける ➥最終ファイルエンドから早戻し（REVIEW）を続けます（☞ P38）。
スキップ間隔でファイルスキップ以外を設定するか、少し前再生がONの設定で早戻しボタンを押す ➥設定された時間間隔またはインデックスマークのいずれか近い方、もしくは少し前再生の戻り時間分だけ逆スキップして再生を開始します。
スキップ間隔でファイルスキップを設定するか、少し前再生がOFFの設定で早戻しボタンを押す ➥最終ファイル開始位置またはインデックスマークのいずれか近い方へ逆スキップして再生を開始します。
早送りボタンを押す ➥先頭ファイルの開始位置へスキップして停止します。
早送りボタンを押し続ける ➥先頭ファイルの開始位置から連続してスキップし、早送りボタンを離すと停止します。

ご注意

「最終ファイルエンド」が５秒間点滅表示終了後は、最終ファイルの開始位置に戻って停止します。

イヤホンで聞くとき



本機のイヤホンジャックにイヤホンを接続して聞くことができます。

イヤホンを接続するとスピーカから音は出ません。

ご注意

- 耳への刺激を避けるため、ボリュームレベルを0にしてからイヤホンを入れてください。
- 再生中イヤホンで聞くときは音量をあまり上げないでください。聴覚障害、聴力低下を引き起こす恐れがあります。

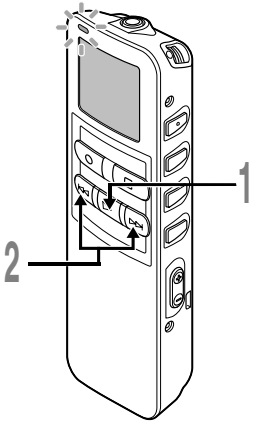
再生に関する設定

ご購入時は、1つのファイルを再生し終わると自動的に停止するように設定されていますが、そのまま次のファイルを連続して再生させることもできます。
また本機は、繰り返し再生するリピート再生機能や、聞き取りやすいように周囲の雑音を軽減するノイズキャンセル機能を備えています。詳しくは下記のページを参照してください。

再生スピード：　設定（☞ P41）
連続再生：　OFF/ON（☞ P43）
リピート再生：　設定（☞ P44）
少し前再生：　OFF/1 秒前 /2 秒前（☞ P46）
スキップ間隔：　ファイルスキップ/10 秒 /30 秒 /1 分 /5 分 /10 分（☞ P47）
ノイズキャンセル：OFF/LOW/HIGH（☞ P49）
アラーム再生：　OFF/ON（☞ P50）

再生スピード（PLAY SPEED）をかえる

ファイルの再生スピードを0.5倍から2倍速の間で切り替えることができます。設定は再生中とメニュー画面からの2通りの方法で切り替えることができます。



再生中に切り替える

1 再生中に再生ボタンを押す

現在設定されている再生スピードに切り替わり、再生スピードが5秒間点滅表示されます。

2 再生スピードの点滅表示中に早送りまたは早戻しボタンを押して再生スピードを切り替える

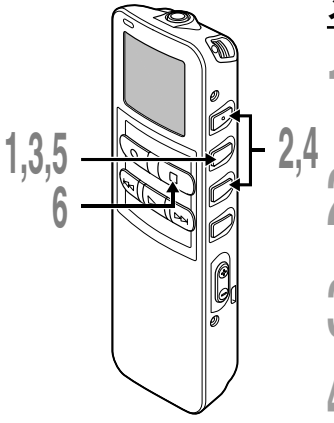
再生スピードは0.5倍速から2倍速の間で0.125倍刻みで切り替えることができます。以降は設定した再生スピードでの早聞き／遅聞き再生になります。
設定後5秒間は再生スピードが点滅表示されます。
なお、設定後はメニュー設定内の再生スピードも変更されます。

通常再生に戻す

早聞き／遅聞き再生中に再生ボタンを押すと通常の再生スピードに戻すことができます。

再生スピードを表示する

早聞き／遅聞き再生中に表示ボタンを1秒以上押すと再生スピードが5秒間点滅表示します。



メインメニュー画面から設定する

1 メニューボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります（☞ P74、76）。

2 ▼または▲ボタンを押して「再生スピード」を選ぶ

3 決定ボタンを押す
再生スピードの設定を始めます。

4 ▼または▲ボタンを押して再生スピードを選ぶ
再生スピードは0.5倍速から2倍速の間で0.125倍刻みで切り替えることができます。

5 決定ボタンを押して設定を完了する
以降は設定した再生スピードでの早聞き／遅聞き再生になります。

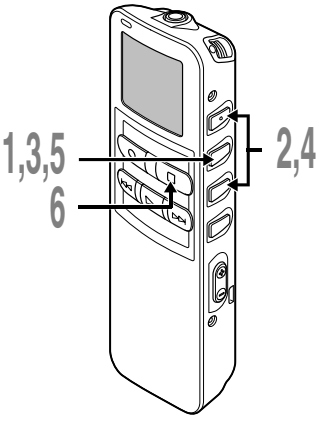
6 停止ボタンを押してメインメニュー画面を終了する

ご注意

- 再生スピードの点滅表示中に表示ボタンを押すと、点滅表示が終了します。
- 再生速度の点滅表示中に停止ボタンを押すと、再生が終了します。
- ノイズキャンセルレベル（☞ P49）が「LOW」または「HIGH」のときは、再生スピードの切り替えはできません。
- 早聞き／遅聞き再生中は、ステレオHQまたはステレオSPモードで録音されたファイルでもモノラル再生されます。

連続再生（ALL PLAY）のしかた

再生中のファイルが終了後も、連続して次のファイルを再生することができます。



1 メニューボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります（☞P74、76）。

2 ▼または▲ボタンを押して「連続再生」を選ぶ

3 決定ボタンを押す
連続再生の設定を始めます。

4 ▼または▲ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ
ON…以降は連続再生になります。
OFF…通常の再生に戻ります。

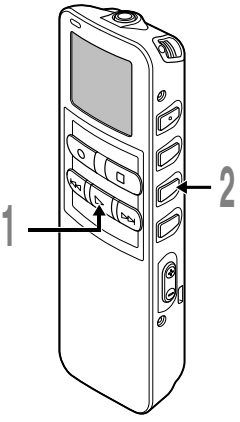
5 決定ボタンを押して設定を完了する

6 停止ボタンを押してメインメニュー画面を終了する

ファイルごとに再生を終了させたくないときは「ON」を選択してください。フォルダ内の最終ファイルまで再生すると、「最終ファイルエンド」が表示され、再生が停止します。

リピート再生する

再生中のファイルの一部分を繰り返し再生することができる機能です。また連続再生機能を併用すれば、同じフォルダ内であればファイルを超えて繰り返し再生することもできます。

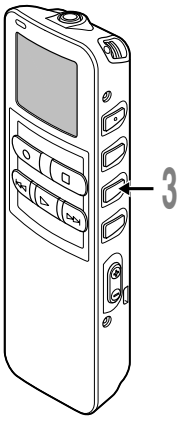


1 リピート再生したいファイルを選び、再生ボタンを押す

ファイルの再生を開始します。

2 リピート再生を開始させたい位置でリピートボタンを短く押す

「リピート再生終了位置？」が点滅します。この「リピート再生終了位置？」の点滅中も通常の再生中と同じように再生スピードの切り替え（☞ P41）や、早送り・早戻し・頭出し（☞ P38）が行え、終了位置まで早く進めることができます。また、ファイルの終りまで到達すると、そこが終了位置になり、リピート再生を開始します。



3 リピート再生を終了させたい位置で、もう一度リピートボタンを短く押す

リピート再生を解除するまで、開始位置と終了位置の間を繰り返し再生します。
連続再生を「ON」（☞ P43）に設定すれば、フォルダ内の最終ファイルまで終了位置として設定が可能です。
リピート再生中も通常再生と同じように、再生スピード、インデックスマークの挿入・消去、ノイズキャンセル機能の設定ができます。

4 リピート再生を解除する

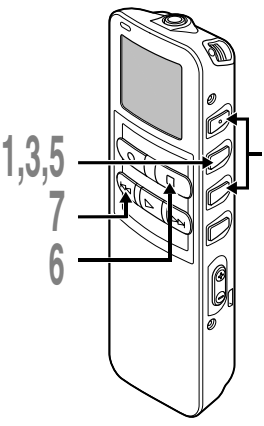
- リピートボタンを短く押すと通常の再生に戻ります。
- 停止ボタンを押すと、リピート再生を解除して停止します。

ご注意

リピートボタンは短く押してください。1 秒以上押し続けるとファイル移動の設定画面が表示されます（☞ P68）。

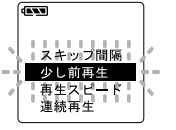
少し前再生（BACK SPACE）のしかた

再生中のファイルを設定した秒数だけ戻して再生することができる機能で、短いフレーズを繰り返し再生するときに便利です。



1 メニューボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります（☞P74、76）。

2 ▼または▲ボタンを押して「少し前再生」を選ぶ



3 決定ボタンを押す
少し前再生の設定を始めます。

4 ▼または▲ボタンを押して「OFF」「1秒前」「2秒前」を選ぶ
OFF…通常の頭出しを行います。
1秒前…1秒戻って再生を始めます。
2秒前…2秒戻って再生を始めます。

5 決定ボタンを押して設定を完了する

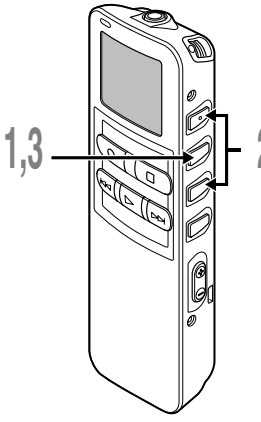
6 停止ボタンを押してメインメニュー画面を終了する

7 ファイルを再生中に早戻しボタンを押す
設定した秒数を戻って再生を始めます。

ご注意
少し前再生で「1秒前」または「2秒前」を設定すると、早戻しボタンを押しても頭出しや、インデックスマークの位置に逆スキップしません。設定した時間（1秒または2秒）だけ逆スキップを行います。

スキップ間隔（SKIP SPACE）を設定する

再生中に早送りまたは早戻しボタンを押すと、設定した時間分だけスキップまたは逆スキップを行います。



1 メニューボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります
（☞P74、76）。

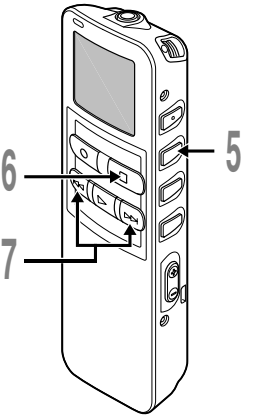
2 ▼または▲ボタンを押して「スキップ間隔」を選ぶ

3 決定ボタンを押す
スキップ間隔の設定を始めます。

4 ▼または▲ボタンを押してスキップ間隔を選択する

ファイルスキップ…
ファイルの頭出しを行います。

10秒・30秒・1分・5分・10分…
設定した時間間隔でスキップし再生を始めます。



5 **決定**ボタンを押して設定を完了する

6 **停止**ボタンを押してメインメニュー画面を終了する

7 ファイルを再生中に**早送り**または**早戻し**ボタンを押す

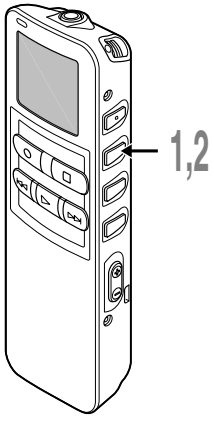
設定した時間をスキップまたは逆スキップして再生を始めます。

ご注意

スキップ間隔と少し前再生の両方が設定されている場合、早戻しボタン押しでの逆スキップは、少し前再生の設定が優先されます。

ノイズキャンセルを設定する

録音した音声が聞き取りにくいときはノイズキャンセルを設定してください。周囲の雑音を低減し、よりクリアな音質で再生します。



1 再生中にメニューボタンを1秒以上押す

現在設定されているノイズキャンセルレベルが表示されます。

2 もう一度メニューボタンを押してノイズキャンセルレベルをかえる

メニューボタンを押すたびに、「OFF」「LOW」「HIGH」の順番でノイズキャンセルレベルが切り替わります。

再生開始直後の変更

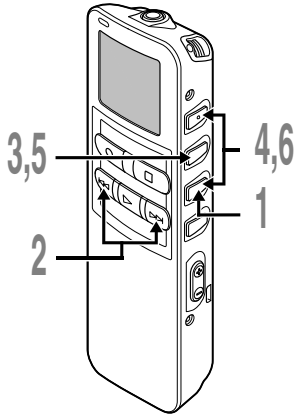
ノイズキャンセルレベルが「LOW」または「HIGH」に設定されているときは、再生開始時に5秒間ノイズキャンセルレベルが表示されます。この表示中にメニューボタン押すと「OFF」「LOW」「HIGH」が切り替わります。

ご注意

- 現在の設定が点滅中にノイズキャンセルレベルを変更しないと、表示中のレベルで確定され、表示が元に戻ります。
- ノイズキャンセルレベルを「LOW」または「HIGH」にすると、その設定は「OFF」にするまで有効になります。
- 早聞き、遅聞き再生中（☞ P38）は、ノイズキャンセルを使用できません。
- ステレオHQまたはステレオSPモードで録音されたファイルにノイズキャンセルを設定すると、モノラルで再生されます。

アラーム再生（ALARM）を使う

アラーム再生とは設定した時刻にアラーム音を鳴らし、アラームが鳴っている間にいずれかのボタンを押すと、あらかじめ設定したファイルを再生する機能です。



1 **フォルダ**ボタンを押してフォルダを選ぶ

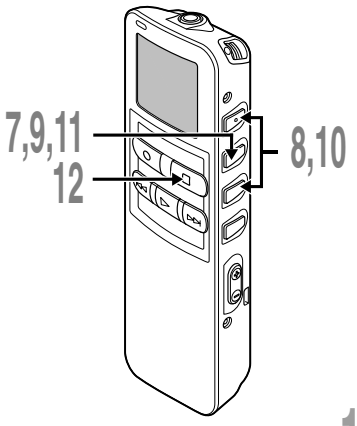
2 **早送り**または**早戻し**ボタンを押してアラーム再生したいファイルを選ぶ

3 **メニュー**ボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります（☞P74、76）。

4 **▼**または**▲**ボタンを押して「アラーム再生」を選ぶ

5 **決定**ボタンを押す
アラーム再生の設定を始めます。

6 **▼**または**▲**ボタンを押して「ON」を選ぶ
ON…アラーム再生をします。
OFF…アラーム再生を解除します。



7 **決定ボタンを押して確定する**
「時」が点滅します。
「OFF」を選択するとアラーム再生の設定を中止し、アラーム表示は消えます。☞ 手順12へ

8 **▼または▲ボタンを押して「時」を設定する**

9 **決定ボタンを押して確定する**
「分」が点滅します。

10 **▼または▲ボタンを押して「分」を設定する**

11 **決定ボタンを押して設定を完了する**

12 **停止ボタンを押してメインメニュー画面を終了する**

アラーム再生時刻になると「ピーピー・・・」とアラーム音が鳴り出します。アラーム音が鳴っている間にいずれかのボタンを押すと、設定したファイルが再生されます。

アラーム音のみ鳴らしたいとき

設定した時刻にアラーム音のみ鳴らしたいときは、選択したフォルダのファイル数が0件の状態で設定します。

- 「アラーム再生を使う」の手順３（☞P50）から設定を始めます。
- 設定時刻になってアラーム音が鳴ったとき、いずれかのボタンを押すと止まります。

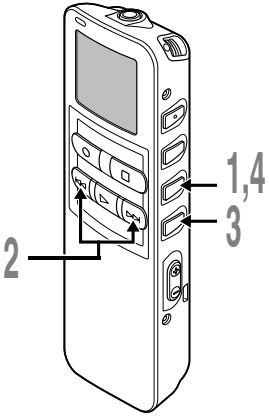
ご注意

- アラーム再生は1つのファイルのみ設定できます。
- アラーム再生の設定を解除しないと、毎日設定された時刻にアラーム音が鳴り始めます。
- アラーム再生するファイルをかえる場合は、一度アラームの設定を「OFF」にしてから、再度設定を行なってください。
- アラームは鳴り始めて５分たつと止まります。
- アラームを設定した時刻に本機を操作していたり、本機が動作中の場合は、終了後アラームが鳴り出します。
- ホールドになっていても、アラーム再生の設定時刻になると、アラームが鳴り出します。この場合はホールド中でもいずれかのボタンを押すと設定したファイルの再生を始めます。
- 設定したファイルを消去すると、アラーム再生の設定は解除されます。
- タイマー録音が設定されている場合は、タイマー録音の設定を優先します。

消去する

ファイルを 1 件ずつ消去する

フォルダ内の消去したいファイルを消去できます。



1 **フォルダ**ボタンを押してフォルダを選ぶ

2 **早送り**または**早戻し**ボタンを押して消去したいファイルを選ぶ

ⓐ 消去したいファイル

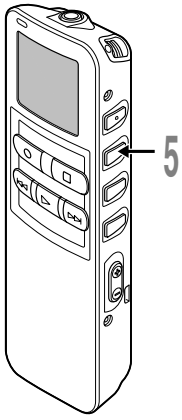
3 **消去**ボタンを押す

「キャンセル」が点滅します。

4 **▼ボタンを押して「開始」を選ぶ**

「開始」が点滅します。▲ボタンを押すと「キャンセル」の点滅表示に戻ります。

キャンセル →▼ボタンを押す→ ←▲ボタンを押す← 開　始



5 「開始」が点滅中に決定ボタンを押す

ディスプレイが「ファイル消去中!」にかわり、消去を開始します。

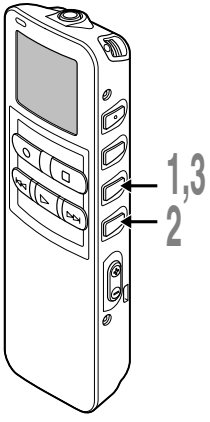
「消去完了」と表示されたら終了です。
消去したファイル以降のファイル番号は自動的に繰り上がります。

ご注意

- 一度消去したファイルは元に戻すことができません。
- 消去ロック設定のあるファイルは消去されません（☞ P57）。
- 設定中に８秒間操作を行わないと停止状態に戻ります。
- 消去を完了するまで数十秒かかることがあります。その間は絶対に電池を取り外さないでください。データが破損する恐れがあります。

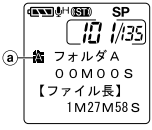
フォルダ内のファイルをすべて消去する

選んだフォルダ内のファイルすべてを消去できます。
ただし消去ロック設定のあるファイルは消去されません（☞ P57）。



1 **フォルダ**ボタンを押して全ファイルを消去したいフォルダを選ぶ

ⓐ 消去したいフォルダ



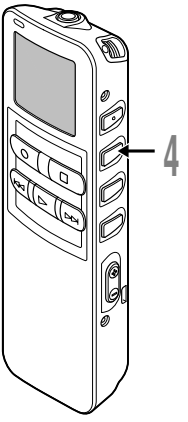
2 **消去**ボタンを3秒以上押す

「キャンセル」が点滅します。

3 **▼ボタンを押して「開始」を選ぶ**

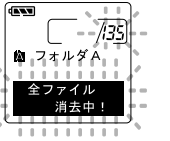
「開始」が点滅します。▲ボタンを押すと「キャンセル」の点滅表示に戻ります。

キャンセル →▼ボタンを押す→ ←▲ボタンを押す← 開　始



4 「開始」が点滅中に決定ボタンを押す

ディスプレイが「全ファイル消去中!」にかわり、消去を開始します。



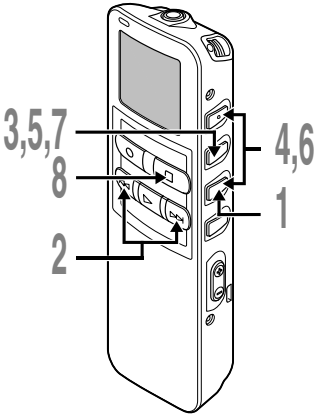
「消去完了」と表示されたら終了です。
消去ロックの設定されているファイルは、ファイル番号の小さい順にあらためて「1」からファイル番号がつきます。

ご注意

- 一度消去したファイルは元に戻すことができません。
- 消去ロック設定のあるファイルは消去されません（☞ P57）。
- 設定中に 8 秒間操作を行わないと停止状態に戻ります。
- 消去を完了するまで数十秒かかることがあります。その間は絶対に電池を取り外さないでください。データが破損する恐れがあります。

誤消去を防止（LOCK）する

ファイルに消去ロックをかけることにより、重要なファイルの誤消去を防止できます。
また、フォルダ内のファイル全消去を行っても消去されません（☞ P55）。



1 **フォルダ**ボタンを押してフォルダを選ぶ

2 **早送り**または**早戻し**ボタンを押して消去ロックをかけたいファイルを選ぶ

3 **メニュー**ボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります（☞ P74、76）。

4 ▼または▲ボタンを押して「消去ロック」を選ぶ

5 **決定**ボタンを押す
消去ロックの設定を始めます。

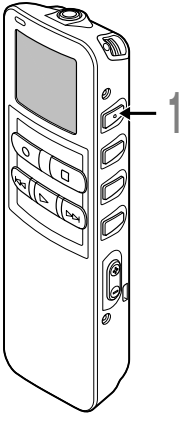
6 ▼または▲ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ
ON…消去ロックがかかります。
OFF…消去ロックが解除されます。

7 **決定**ボタンを押して設定を完了する

8 **停止**ボタンを押してメインメニュー画面を終了する

インデックスマークをつける

1つのファイル内で聞きたい位置をすばやく探すことができるように、インデックスマークをつけることができます。インデックスマークがあると、再生中に早送りまたは早戻しボタンを操作することで、すばやく聞きたい位置から再生できます。

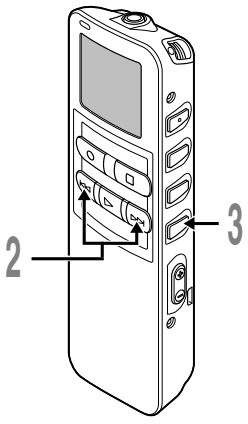


インデックスマークをつける

1 **録音中または再生中にインデックスボタンを押してインデックスマークをつける**

ディスプレイにインデックス番号が表示され、インデックスマークがつきます。

インデックスマークをつけた後も録音または再生は続きますので、同様の操作で別の場所にインデックスマークをつけることができます。



インデックスマークを消去する

1 消去したいインデックスマークのあるファイルを再生する

2 **早送り**または**早戻し**ボタンを押して消去したいインデックスマークを選ぶ

3 ディスプレイにインデックス番号が表示されている間(約2秒間)に**消去**ボタンを押す
インデックスマークが消去されます。

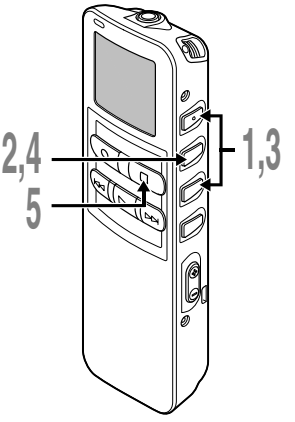
消去したインデックスマーク以降のインデックス番号は自動的に繰り上がります。

ご注意

- インデックスマークは 1つのファイル内に最大で16件までつけることができます。16件を超えてインデックスマークをつけようとすると、「これ以上記録できません」と表示されます。
- 消去ロックをかけてあるファイルは、インデックスマークをつけたり消去することができません（☞P57）。
- WMAファイルは本機またはオリンパス イメージング製ICレコーダーで録音したファイルに限りインデックスマークをつけることができます。
- 少し前再生で「1秒前」または「2秒前」を設定した状態で早戻しボタンを押すと、設定時間分だけ逆スキップします。

ディスプレイのコントラスト（CONTRAST）を調整する

ディスプレイのコントラストを 12 段階に調整できます。



1 **サブメニュー画面で▼または▲ボタンを押して「コントラスト」を選ぶ**
サブメニューについては☞ P75、77 をご覧ください。

2 **決定ボタンを押す**
コントラストの設定を始めます。

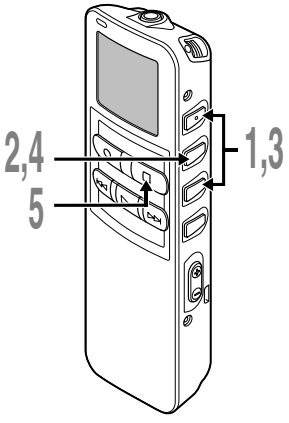
3 **▼または▲ボタンを押してレベルの調整をする**
「1」から「12」の間で調整を行います。

4 **決定ボタンを押して設定を完了する**

5 **停止ボタンを押してサブメニュー画面を終了する**

バックライト（BACKLIGHT）について

ボタンを押すたびにディスプレイのバックライトが約10秒間点灯するので、暗いところでも表示が確認できて便利です。



1 サブメニュー画面で▼または▲ボタンを押して「バックライト」を選ぶ

サブメニューについては☞ P75、77をご覧ください。

2 決定ボタンを押す

バックライトの設定を始めます。

3 ▼または▲ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ

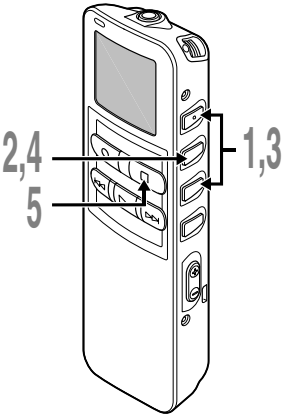
ON…バックライトを設定します。
OFF…バックライトを解除します。

4 決定ボタンを押して設定を完了する

5 停止ボタンを押してサブメニュー画面を終了する

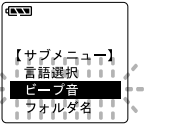
ビープ音（BEEP）について

本機はボタン操作を知らせたり誤操作を警告したりするときにビープ音が鳴ります。
ビープ音を出したくないときは鳴らないように設定することもできます。



1 サブメニュー画面で▼または▲ボタンを押して「ビープ音」を選ぶ

サブメニューについては☞ P75、77をご覧ください。



2 決定ボタンを押す

ビープ音の設定を始めます。

3 ▼または▲ボタンを押して「ON」か「OFF」を選ぶ

4 決定ボタンを押して設定を完了する

5 停止ボタンを押してサブメニュー画面を終了する

アラーム再生が設定されている場合はビープ音の設定がOFFでも、設定時刻にアラーム音が鳴ります。

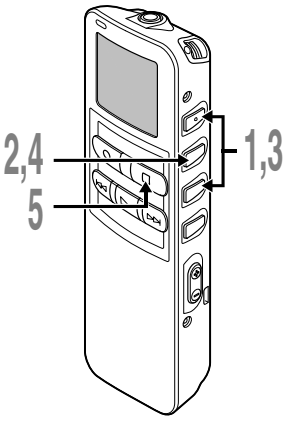
ビープ音の種類

音	内容
ピッ	再生や録音の開始、表示の切り替え
ピピッ	各種の設定、USB コネクタの挿入
プップッ	録音の一時停止
ププッ	再生や録音の停止、頭出しの停止、連続頭出しの停止
プッ	頭出し

音	内容
ポッ	前のファイルへの頭出し
ピピピピッ	誤操作の警告
ププーププー	操作の終わり
ピーピーピー…	アラーム再生
プー	録音可能な残り時間がわずかなときの警告

言語選択（LANGUAGE）のしかた

本機は日本語表示と英語表示のどちらかを選ぶことができます。



1 サブメニュー画面で▼または▲ボタンを押して「言語選択」を選ぶ

サブメニューについては☞ P75、77をご覧ください。

2 決定ボタンを押す

言語選択の設定を始めます。

3 ▼または▲ボタンを押して「日本語」か「ENGLISH」を選ぶ

4 決定ボタンを押して設定を完了する

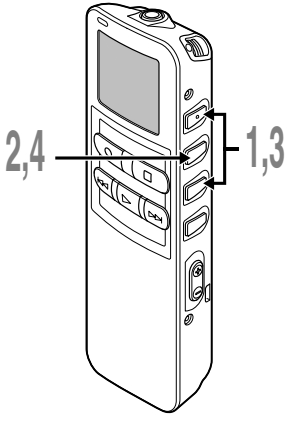
5 停止ボタンを押してサブメニュー画面を終了する

ご注意

表示言語を切り替えても、すでに入力してあるフォルダ名やファイルにつけたコメントの言語がかわることはありません。

フォルダ名（FOLDER NAME）をつける

すべてのフォルダに全角６文字（半角12文字）以内の名前をつけることができます。また「会議」や「日程」「重要」といったよく使われる単語は、あらかじめテンプレート（☞ P66）に登録されているので入力する手間がいりません。



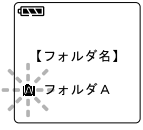
1 サブメニュー画面で▼または▲ボタンを押して「フォルダ名」を選ぶ

サブメニューについては☞ P75、77をご覧ください。

2 決定ボタンを押す

フォルダ名の設定を始めます。

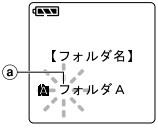
3 ▼または▲ボタンを押して名前をつけるフォルダを選ぶ



4 決定ボタンを押して名前をつけるフォルダを確定する

現在のフォルダ名の先頭の文字が点滅します。

ⓐ **入力中の文字**（スペースは黒の点滅）



5 文字を入力する

文字は挿入入力されます。文字の選びかた（①②③）や入力できる文字は次の通りです。

文字入力時のボタンの割り当て

ボタン	押しかた	本機の動作
決定ボタン	短く押す	文字決定し、次文字へ進む
	長く押す	フォルダ名・コメントを決定
▲ ボタン	短く押す	入力文字の選択　次へ進む
	長く押す	入力文字の早送り
▼ ボタン	短く押す	入力文字の選択　前に戻す
	長く押す	入力文字の早戻し
早戻しボタン	短く押す	点滅を前に戻す
消去ボタン	—	点滅中の文字を消す
早送りボタン	短く押す	文字グループを選択　「入力できる文字」にあるグループ単位順に、先頭の文字を表示
	長く押す	入力グループの早送り
再生ボタン	短く押す	入力文字の選択　５文字飛ばし
	長く押す	入力文字の選択　５文字飛ばしの早送り

① ▲ボタンまたは▼ボタンを押すと文字が前後します。

② **早送り**ボタンを押すと次の文字グループの先頭文字が表示されます。最初に文字グループを決定すれば、入力したい文字にすばやくたどり着けます。

→（スペース）
テンプレート ..... 会議
半角英大文字 ..... A
半角英小文字 ..... a
半角数字 1
全角カタカナ ..... ア
全角ひらがな ..... あ
全角記号 ..... ,

③ **再生**ボタンを押すと以下の順に5文字ごとにスキップして表示を行います。

「　」(スペース)→「会議」→「日程」→「A」→「F」→「K」→「P」→「U」→「Z」→「a」→「f」→「k」→「p」→「u」→「z」→「1」→「6」→「ア」→「カ」→「サ」→･･･→「ラ」→「ワ」→「ン」→「ァ」→「ャ」→「ッ」→「ガ」→「ザ」→「ダ」→「バ」→「パ」→「あ」→「か」→「さ」→･･･→「ら」→「わ」→「ん」→「ぁ」→「ゃ」→「っ」→「が」→「ざ」→「だ」→「ば」→「ぱ」→「ー」→「,」→「？」→「～」→「￥」→「＊」→「　」(スペース)→･･･

上記以外の文字を選択中に再生ボタンを押すと、その直後の文字にスキップします。
（「出張」表示中に再生ボタンを押すと「日程」に、「い」表示中に再生ボタンを押すと「か」になります）

入力できる文字*

文字グループ		表示する順番
テンプレート	フォルダ名入力	会議→商談→出張→講義→重要→日程→メモ→TO DO→語学学習→ベスト
	コメント入力	優先→重要→メモ→アイデア→会議／講演→語学学習→インタビュー→日程→備忘録→TO DO
半角英大文字		A→B→C→・・・・→X→Y→Z
半角英小文字		a→b→c→・・・・→x→y→z
半角数字		1→2→3→・・・・→8→9→0
全角カタカナ		ア→イ→ウ→・・・・→ワ→ヲ→ン→ァ→ィ→ゥ→ェ→ォ→ャ→ュ→ョ→ッ→゛→゜→ー
全角ひらがな		あ→い→う→・・・・→わ→を→ん→ぁ→ぃ→ぅ→ぇ→ぉ→ゃ→ゅ→ょ→っ→が→・・・→ご→ざ→・・・→ぞ→だ→・・・→ど→ば→・・・→ぼ→ぱ→・・・→ぽ→ー
全角記号		，→．→・→：→；→？→！→＿→―→／→～→（→）→【→】→￥→＄→％→＃→＆→＊→＠→★→※→〒

＊ DSS Playerを使用すればテンプレートを自由に変更できます。またパソコンのキーボードから直接フォルダ名やコメントの入力が行えます。

6 フォルダ名を入力し終わったら**決定**ボタンを1秒以上押し続ける

新しいフォルダ名の入力を完了します。
（他のフォルダの名前を続けて入力したいときは再生ボタンを押して、手順3から設定を始めます。）

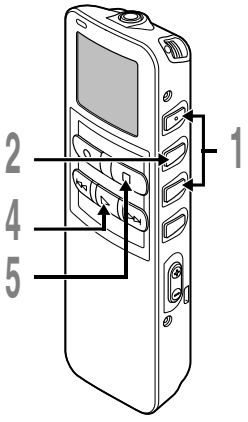
7 **停止**ボタンを押してサブメニュー画面を終了する

ご注意

- 入力した単語を決定することで制限文字数を超えた場合、はみ出した文字、あるいは制限文字数以内であるにも関わらず表示されない文字は自動的に消去されます。
- DSS Playerを使用して、半角カタカナの入ったフォルダ名やコメントを入力しても、本機では表示されません。
- 入力中「文字数オーバーです」と表示されたら、もう一度入力し直してください。

コメント（COMMENT）をつける

全角50文字（半角100文字）以内で録音したファイルにコメントをつけることができます。日付や時間だけでなくさらに多くの情報を盛り込むことで、録音したファイルの内容や状況などがひと目で分かるようになります。



1 サブメニュー画面で▼または▲ボタンを押して「コメント」を選ぶ

サブメニューについては☞ P75、77をご覧ください。

2 決定ボタンを押す

コメントの設定を始めます。

3 文字の入力をする

本機で文字入力を行う場合は「フォルダ名をつける」の手順5（☞ P64）を、パソコンで入力を行う場合は「コメントを編集する」（☞ P102）をご覧ください。

4 コメントを入力し終わったら再生ボタンを1秒以上押し続ける

コメントの入力を完了します。

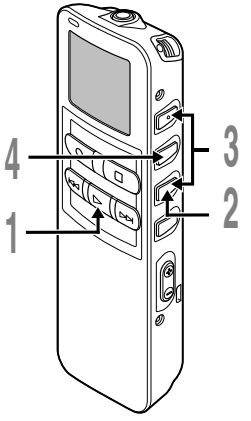
5 停止ボタンを押してサブメニュー画面を終了する

ご注意

WMAファイルは本機またはオリンパス製ICレコーダーで録音したファイルに限りコメントをつけることができます。

ファイルを移動する

録音したファイルを別のフォルダに移動することができます。移動したファイルは移動先のフォルダの一番最後に加えられます。



1 移動させたいファイルを選び再生ボタンを押して再生する

2 再生中にフォルダボタンを1秒以上押す

再生が停止してディスプレイに移動先のフォルダが点滅します。

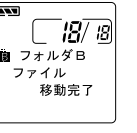
ⓐ 移動したいファイル
ⓑ 現在のフォルダ
ⓒ 移動先のフォルダ

3 ▼または▲ボタンを押して移動先のフォルダを選ぶ

移動先に元のフォルダを選ぶと、そのフォルダ内の一番最後にファイルが移動します。

4 決定ボタンを押して移動先のフォルダを確定する

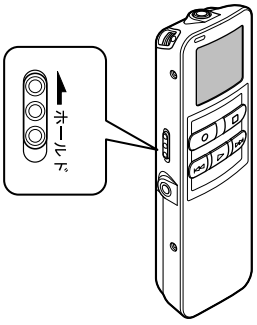
「ファイル移動完了」と表示されたら終了です。



ご注意

- 移動先のフォルダの録音件数が最大（199）のときは、「件数オーバーで移動できません」と警告表示され、移動できません。
- 移動先のフォルダを選ぶとき、停止ボタンを押すか、8秒間操作をしないとファイル移動を中止します。

誤操作を防止する－ホールド機能



ホールドにすると現在の状態を保ち、ボタンやスイッチ操作を受け付けません。かばんやポケットに入れたとき、誤ってボタンが押されても動作しないので、持ち運ぶときなどに便利です。

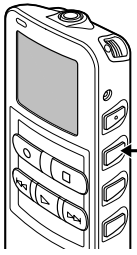
使用するときは必ずホールドスイッチを解除してください。

ご注意

- 停止状態でホールドにするとディスプレイが消灯します。このときいずれかのボタンを押すと、時計表示が約２秒間点滅しますが、動作しません。
- 再生（もしくは録音）中にホールドにすると、再生(録音）状態のまま操作ができなくなります。（再生が終了したり、メモリ残量がなくなって録音が終了すると停止状態になります。）
- ホールド中でもアラーム再生の設定時刻になるとアラームが鳴り出します。このときはホールド中でもボタンの操作ができます。
- ホールド中でもタイマー録音の設定時刻になると録音を開始します。

ディスプレイ表示をかえる

本機はディスプレイ表示の切り替えが可能です。停止・再生中または録音中に表示ボタンを押すとディスプレイ表示が切り替わり、ファイルに関する情報や本機の状態が確認できます。



1 表示ボタンを押す
表示ボタンを押すたびにディスプレイの表示パターンがかわります。

停止・再生中の表示パターン

①から⑥を繰り返し表示します。ただしファイル数が0件のときは⑤と⑥を交互に表示します。

① ファイル長
ファイルの長さを表示します。

② タイムスタンプ
録音した年·月·日を表示します。

③ タイムスタンプ
録音した月·日·時·分を表示します。

④ コメント
ファイルに対するコメントを表示*します(コメントが未入力のときは「－－－－」を表示)。

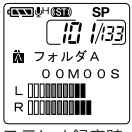
⑤ メモリ残量
録音可能な残り時間を表示します。

⑥ 現在日時
現在日時を表示します(再生中は【現在日時】表示部分がカウンター表示)。

＊ 文字数が多いときは横にスクロールして表示します。
(停止中はコメントが１周した後１行目を表示、再生中はコメントを繰り返し表示)

録音中の表示パターン

①と②を交互に表示します。



ステレオ録音時

モノラル録音時

① 録音レベルメータ

音声の入力レベルをグラフィックで表示します。
音声入力レベルの表示はステレオ録音とモノラル録音により異なります。

② メモリ残量バー

録音可能な残り時間を、バー形式およびカウントダウン形式で表示します。

VCVA 録音中の表示パターン

①と②を交互に表示します。

ステレオ録音時

モノラル録音時

① VCVA録音レベルメータ

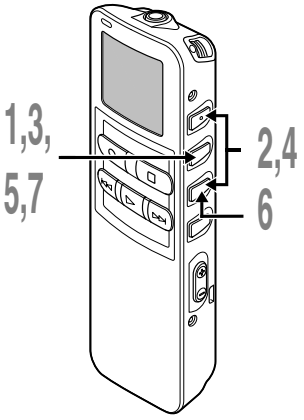
音声の入力レベルと起動レベルをグラフィックで表示します(VCVA起動レベルに達していないときは「待機中」表示)。
音声入力レベルの表示はステレオ録音とモノラル録音により異なります。

② メモリ残量バー

録音可能な残り時間を、バー形式およびカウントダウン形式で表示します。

初期化（FORMAT）する

初期化すると記録されているファイルはすべて消去され、年月日時分の設定を残し、各機能の設定が購入時の状態に戻ります。大切なファイルはパソコンに転送してから初期化してください。



1 メニューボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります(☞ P74、76)。

2 ▼または▲ボタンを押して「◇サブメニュー」を選ぶ

3 決定ボタンを押す
サブメニュー画面に入ります(☞ P75, 77)。

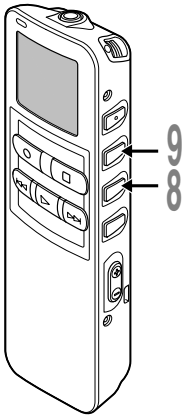
4 ▼または▲ボタンを押し「初期化」を選ぶ

5 決定ボタンを押す
「キャンセル」が点滅します。

6 ▼ボタンを押して「開始」を選ぶ
「開始」が点滅します。▲ボタンを押すと「キャンセル」の点滅表示に戻ります。

キャンセル →▼ボタンを押す→ ←▲ボタンを押す← 開　始

7 決定ボタンを押す
「データが完全に消去されます」を約2秒間点灯後、「キャンセル」が点滅します。



8 ▼ボタンを押してもう一度「開始」を選ぶ

「開始」が点滅します。▲ボタンを押すと「キャンセル」の点滅表示に戻ります。

9 決定ボタンを押す

表示が点滅して初期化を開始します。

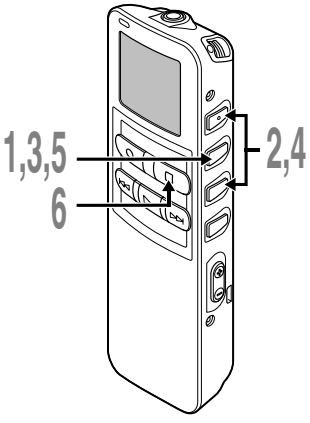
「初期化完了」が表示されたら初期化完了です。

ご注意

- 初期化中は絶対に電池を取り外さないでください。データが破損する恐れがあります。消去を完了するまで数十秒かかることがあります。
- 本機をパソコンから初期化することは絶対にしないでください。
- 初期化後、録音した音声ファイルは、ファイル名が 0001 からとなる場合があります。
- 初期化をすると消去ロックをかけたファイルを含む既存のデータはすべて消去されます。

メニューの設定のしかた

メニューリスト（☞ P76、77）の各項目は次の方法で設定が可能です。



メインメニューの設定

1 メニューボタンを1秒以上押す
メインメニュー画面に入ります。

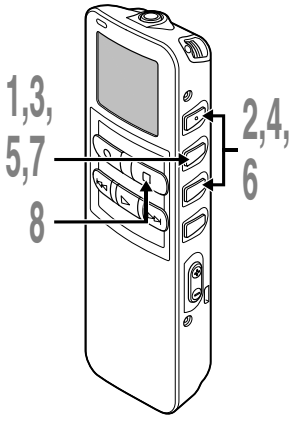
2 ▼または▲ボタンを押して設定したい項目に移動する。

3 決定ボタンを押す
選択した項目の設定に移動します。
サブメニューを選択した場合、サブメニューの項目に移動します。

4 ▼または▲ボタンを押して設定を変更する

5 決定ボタンを押して設定内容を確定する

6 停止ボタンを押してメインメニューを終了する



サブメニューの設定

1 **メニューボタンを1秒以上押す**
メインメニュー画面に入ります。

2 **メインメニューの設定画面で▼または▲ボタンを押して「◇サブメニュー」を選ぶ**

3 **決定ボタンを押す**
サブメニュー画面に入ります。

4 **▼または▲ボタンを押して設定したい項目に移動する。**

5 **決定ボタンを押す**
選択した項目の設定に移動します。メインメニューを選択した場合、メインメニュー画面に戻ります。

6 **▼または▲ボタンを押して設定を変更する**

7 **決定ボタンを押して設定内容を確定する**

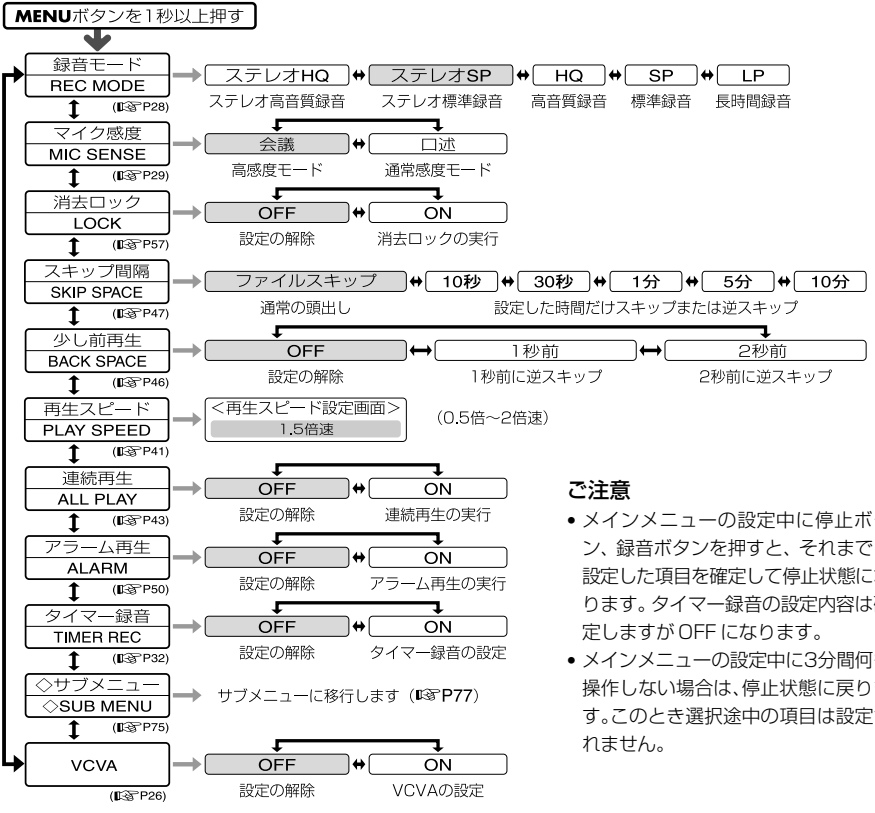
8 **停止ボタンを押してサブメニューを終了する**

メニューの一覧

メインメニュー

上段：日本語表示
下段：ENGLISH表示

→ メニューボタンを 1 秒以上押す
↔ ▼または▲ボタン（選択ボタン）を押す
→ 決定ボタンを押す
□ 初期設定



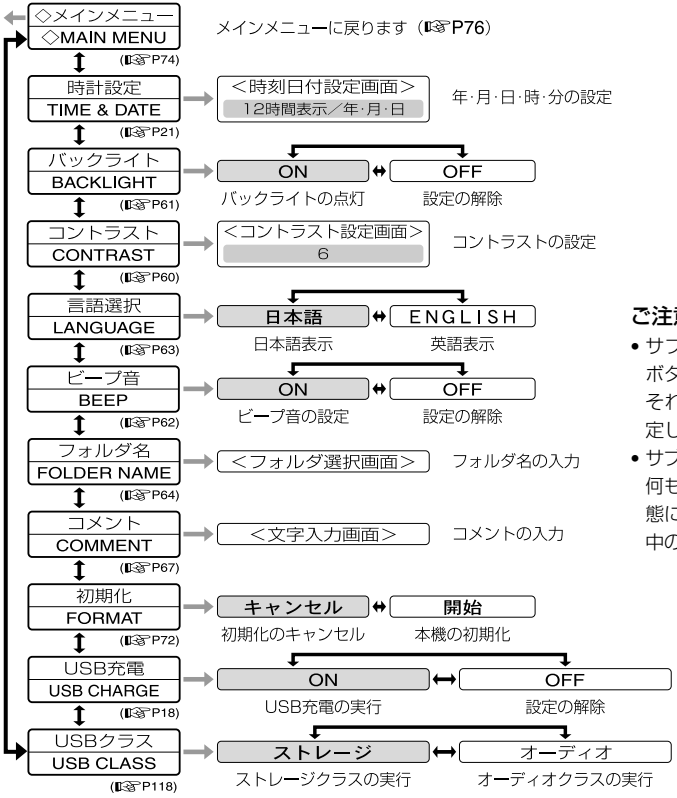
ご注意

- メインメニューの設定中に停止ボタン、録音ボタンを押すと、それまでに設定した項目を確定して停止状態になります。タイマー録音の設定内容は確定しますが OFF になります。
- メインメニューの設定中に3分間何も操作しない場合は、停止状態に戻ります。このとき選択途中の項目は設定されません。

サブメニュー

上段：日本語表示
下段：ENGLISH表示

↔ ▼または▲ボタン（選択ボタン）を押す
→ 決定ボタンを押す
□ 初期設定



ご注意

- サブメニューの設定中に停止ボタン、録音ボタンを押すと、それまでに設定した項目を確定して停止状態になります。
- サブメニューの設定中に3分間何も操作しない場合は、停止状態に戻ります。このとき選択途中の項目は設定されません。

DSS Playerを使う

本機はパソコンと接続し、DSS Playerを使うことで次のようなことができます。
- パソコンで音声ファイルを再生する
- 本機の音声ファイルをハードディスクにバックアップしたり、パソコンから本機にファイルを転送する
- DSS Player Plusへのアップグレード（有償）を行えば、より多彩な機能をご利用いただけます（☞P106）。

本機をパソコンに接続して扱うときの注意事項

●本機からファイルをダウンロードしたり本機にファイルをアップロードするときはパソコンから通信中の画面が消えても、本機の録音/再生表示ランプが点滅中はデータを転送中ですので、USB接続ケーブルを外さないでください。また、USB接続ケーブルを外す場合は、必ず☞P89に記載の方法で行ってください。ドライブを停止してから外さないと、正常にデータが転送されないことがあります。

●パソコンでは本機ドライブを初期化（フォーマット）しないでください。パソコンで初期化した場合は正しく初期化されません。初期化は、本機のサブメニュー画面から行ってください（☞P75、77）。

●Windowsに付属の「エクスプローラ」や、Mac OSに付属の「Finder」などで表示されるフォルダ（ディレクトリ）名は本機およびDSS Playerで設定できるフォルダ名とは異なります。

●「エクスプローラ」や「Finder」などのファイル管理ツールを使用して、本機に保存されているフォルダやファイルに対して移動や名前の変更などの操作を行うと、ファイルの順番が変わったり、ファイルを認識できなくなることがあります。

●パソコン上の操作で本機ドライブの属性をリードオンリー（読み取り専用）に設定しても、本機ではデータの読み書きができますのでご注意ください。

●ノイズにより周辺電子機器に影響を及ぼすことがありますので、パソコンに接続するときは、イヤホンを外してください。

パソコンの動作環境

DSS Player の基本動作環境

Windows

DSS Player

対応パソコン	DOS/V 機（IBM PC/AT 互換機）
OS(オペレーティングシステム)	Microsoft Windows Me/2000 Professional（以降 Windows 2000 と表記）/XP Professional, Home Edition（以降 XP と表記）
CPU	Intel Pentium II 333MHz 以上（WMA 形式で直接ハードディスクに録音する場合は 500MHz 以上の環境でご使用ください）
RAM 容量	128MB以上(256MB以上を推奨)
ハードディスク空き容量	DSS Player のインストール：50MB 以上
ドライブ	2 倍速以上の CD-ROM または CD-R、CD-RW、DVD-ROM ドライブ
サウンドボード	Creative Labs Sound Blaster16 または 100%互換のサウンドボード
ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 4.01 SP2 以上
ディスプレイ	800 × 600 ドット、256 色以上
USB ポート	1 つ以上の空き
オーディオ入出力端子	イヤホンまたはスピーカ出力端子
その他	・マウス、またはそれに類するポインティングデバイス ・インターネットが利用できる環境

Macintosh

対応パソコン	Power Mac G3 333MHz 以上 iMac、iBook、eMac, Power Mac、PowerBook（ただしUSBポートを標準で装備した機種）（WMA形式で直接ハードディスクに録音する場合は 500MHz 以上の環境でご使用ください）
OS(オペレーティングシステム)	Mac OS 10.1/10.2/10.3
RAM 容量	128MB以上(256MB以上を推奨)
ハードディスク空き容量	50MB 以上
ドライブ	2 倍速以上の CD-ROM または CD-R、CD-RW、DVD-ROM ドライブ
ディスプレイ	800 × 600 ドット、256 色以上
USB ポート	1 つ以上の空き
オーディオ入出力端子	イヤホンまたはスピーカ出力端子

ご注意

- NEC PC-9821シリーズのサポートはしておりません。(PC-9821をお客様でクロックアップやメモリ拡張したものを含みます)。
- パソコンがＵＳＢ ポートを備えていても、Windows 95 または 98 から Windows Me/2000/XPにアップデートした場合はサポート対象外となります。
- 動作環境を満たしていても、自作パソコンでの不具合は動作保証外とさせて頂いております。

表記について

本書では次のコンピュータを想定して説明しています。お客様の環境と異なる場合は、説明内容にしたがいそれぞれお客様の環境に適するように置き替えて解釈してください。

(Macintosh)

- MacOS Xを使用しているものとして解説します。

(Windows)

- 1 台目のハードディスクを C ドライブとして解説します。
- 1 台目のフロッピーディスクを A ドライブとして解説します。
- 1台目のCD-ROMドライブをDドライブとして解説します。
- Windows XP を使用しているものとし、Windows のインストール先のパスをC:¥Windowsとして解説します。

また、お客様が パソコンの基本操作に慣れていることを前提にしています。

パソコンの操作については、ご使用のパソコン取扱説明書をご覧ください。分からない用語については、「用語の説明」をご覧ください（☞P125）。

ソフトウェアのインストール

本機をパソコンにつないでご使用になるには、同梱のCD-ROM「DSS Player」に含まれるソフトウェアをインストールしてください。

「DSS Player」に付属のアプリケーション

- DSS Player：本機で録音した音声をパソコンに転送して再生したり、管理することができます。
- オンラインユーザー登録：オリンパスのインターネットサイトに接続し、オリンパスのユーザー登録を行います。

インストールの前に次のことをご確認ください

- 起動しているアプリケーションは、すべて終了してください。
- フロッピーディスクドライブにディスクが入っている場合は抜いてください。
- OSにWindows2000、XP、Mac OS Xをご利用の場合はAdministrator（管理者）に所属しているユーザー名でログインしてください。

Windows

1 Windowsを起動する

2 付属の「DSS Player」をCD-ROMドライブに挿入する

自動的にインストールプログラムが起動します。起動した場合は手順5に進み、起動しない場合は次の手順3、4にしたがって進んでください。

3 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選ぶ

4 [名前:]に「D:¥Setup.exe」と入力して[OK]ボタンをクリックする

CD-ROMドライブがD:と仮定します。

5 「DSS Player」のオープニング画面が表示されたら、「DSS Playerのインストール」または「オンラインユーザー登録」を選択する。

DSS Playerのインストール

6 [ユーザー情報の登録]
あなたのお名前、会社名およびシリアル番号を入力してください。シリアル番号はDSS Player収録のCD-ROMパッケージに貼ってあるシールをご覧ください。入力が終りましたら［次へ］をクリックします。確認のダイアログが現れる場合は［はい］をクリックしてください。

7 [使用許諾契約]
DSS Playerをインストールするには、この契約に同意していただく必要があります。［はい］をクリックしてください。

8 [インストール先の選択]
DSS Playerのインストール先を変更するときは［参照］を、変更の必要がなければ［次へ］をクリックします。変更しない場合は、C:¥Program Files¥Olympus¥DSS Playerとなります。

9 [新しいフォルダの確認]
インストール先のフォルダが存在しない場合、作成確認の画面が表示されますので[はい]をクリックします。

10 [プログラム フォルダの選択]
プログラムフォルダの選択ができます。変更の必要がなければ[次へ]をクリックします。

11 [現在の設定]
現在の設定を確認します。よろしければ［次へ］をクリックし、プログラムフォルダやインストールフォルダを変えたいときは［戻る］をクリックし、変更してください。

12 ファイルコピーの開始
DSS Playerが自動的にインストールされますので、しばらくお待ちください。このとき他の作業は行わないでください。

13 [Install Shield ウィザードの完了]
[完了]をクリックします。
自動的に手順5の画面に戻ります。

引き続きオンラインユーザー登録をする方は「オンラインユーザー登録」を選択し、手順14へ進んでください。

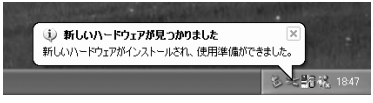
オンラインユーザー登録

14 画面の文章をお読みになり、指示に従ってユーザー登録を行う

ドライバのインストール

15 「パソコンに接続する」(☞ P88)を参考に、本機をパソコンに接続する

DSS Player をインストールして初めて本機をパソコンに接続すると、本機のドライバが自動的にインストールされます。正常にドライバがインストールされると以下のように表示があらわれDSS Playerが自動的に起動します(DSS Playerの操作方法は☞ P95以降を参照してください)。



Macintosh

1 Macintoshを起動する

2 付属の「DSS Player」をCD-ROMドライブに挿入する

DSS Player のインストール

3 「DSS Player Installer OS X」のアイコンをダブルクリックする

4 DSS Playerのオープニング画面が表示されたら[続ける]をクリックする

5 [使用許諾契約]
DSS Playerをインストールするには、この契約に同意していただく必要があります。同意いただける場合、［同意します］をクリックしてください。

6 [フォルダの選択]
DSS Playerのインストール先を指定します。変更の必要がなければ、［選択］をクリックします。
インストールを開始します。

7 インストールの完了
インストールが完了しましたら、[終了] をクリックしてください。

引き続きオンラインユーザー登録をする方は「オンラインユーザー登録」を選択し、手順9へ進んでください。

8 [ユーザー情報の登録]
DSS Playerをお使いいただくには、初回起動時にユーザー情報の登録が必要になります。
インストール時に作成される「ＤＳＳ Player」フォルダを開き、をダブルクリックするとユーザー登録の画面が表示されます。あなたのお名前、会社名およびシリアル番号を入力してください。
シリアル番号はDSS Player収録のCD-ROMパッケージに貼ってあるシールをご覧ください。
入力が終りましたら［OK］をクリックし登録を完了します。

オンラインユーザー登録

9 [オンラインユーザー登録]のアイコンをダブルクリックする
オンラインユーザー登録を行うとインターネットからユーザー登録ができます。

ソフトウェアのアンインストール

パソコンからソフトウェアを取り除くことをアンインストールと呼びます。アンインストールは、各ソフトウェアが必要なくなったときに行ってください。

Windows

1 DSS Playerを終了する

2 [スタート]メニューより[コントロールパネル]を選ぶ

3 コントロールパネルウィンドウ内にある[プログラムの追加と削除]をクリックする

4 インストールされているアプリケーションの一覧が表示されたら、アンインストールするソフトウェアを選ぶ

5 [変更と削除]をクリックする

6 [ファイル削除の確認]
［OK］ボタンをクリックするとアンインストールを開始します。
途中でメッセージが表示されることがあります。その際はメッセージをよく読み、指示にしたがって操作してください。

7 [メンテナンスの完了]の画面が表示されたら[完了]をクリックし、アンインストールを終了する

アンインストール後に残されるファイルについて

作成した音声ファイルは「Message」フォルダに保存されています。不要な場合は削除してください。「Message」フォルダの場所は、アンインストールする前に［ツール］メニューの［オプション］をクリックし「ダウンロードフォルダ」の項目で確認できます。

Macintosh

1 DSS Playerを終了する

2 初期設定ファイルを削除する

以下の場所にある「DSS Preference」ファイルを削除してください。
Macintosh HD：ユーザー（User）：ライブラリ（Library）：Preferences

3 実行ファイルを削除する

インストールした場所にある「DSS Player」ファイルを削除してください。
OS Xをご利用の方は完了です。

4 ヘルプファイルを削除する

以下の場所にある「DSS Playerヘルプ」ファイルを削除してください。
システムフォルダ：ヘルプ

アンインストール後に残されるファイルについて

作成した音声ファイルは「Message」フォルダに保存されています。不要な場合は削除してください。「Message」フォルダの場所は、アンインストールする前に［ツール］メニューの［オプション］をクリックし「ダウンロードフォルダ」の項目で確認できます。

オンラインヘルプの使いかた

オンラインヘルプを表示するには、次のいずれかを行ってください。

(Windows)
- [スタート] → [すべてのプログラム] → [Olympus DSS Player] → [ヘルプ] を選択する。
- DSS Playerを起動した状態で、[ヘルプ] メニューから [ヘルプを開く] を選択する。
- DSS Player を起動した状態で、キーボードの [F1] キーを押す。

(Macintosh)
- DSS Player を起動した状態で、[ヘルプ] メニューから [DSS Player ヘルプ] を選択する。

目次で検索する

1 オンラインヘルプを表示させてから、目次のタブをクリックする

2 検索したい項目の をダブルクリックする
選択項目のタイトルが表示されます。

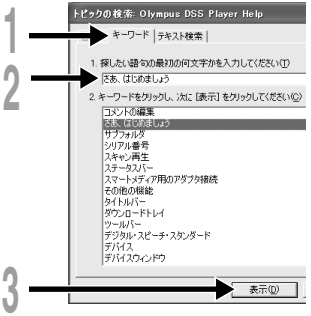
3 検索したい項目の [?] をダブルクリックする
選択項目の説明が表示されます。

キーワードで検索する

1 オンラインヘルプを表示させてから、キーワードのタブをクリックする
検索可能なキーワードの一覧が表示されます。

2 文字を入力する
自動的に検索されます。

3 項目を選択して [表示] をクリックする
選択項目の説明が表示されます。

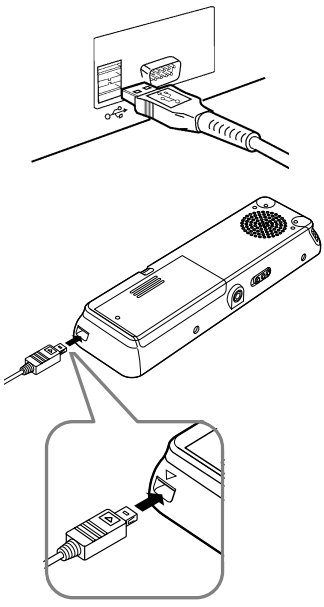


ご注意

本書はDSS Playerの基本的な操作を説明しています。メニューや詳細についてはオンラインヘルプをご覧ください。オンラインヘルプはDSS Playerのインストール後から使用できます。

パソコンに接続する

本機の接続は、必ずDSS Playerをインストールしてから行ってください（☞ P81）。



直接パソコンに接続する

1 ホールドスイッチを解除する

2 USB接続ケーブルをパソコンのUSBポートまたはUSBハブに接続する

3 本機が停止していることを確認し、本機底部の接続ポートへUSB接続ケーブルを接続する

USB接続ケーブルの△マークを本機接続ポートの△マークに合わせて接続してください。

USB接続中は、本機のディスプレイに「PC接続中ストレージクラス」と表示されます。

Windows

本機を接続し「マイコンピュータ」を開くと「リムーバブルディスク」ドライブとして表示されます。

Macintosh

Mac OSに本機を接続するとデスクトップ上に「unlabeled」または「名称未設定」というドライブ名でアイコンが表示されます。

ご注意

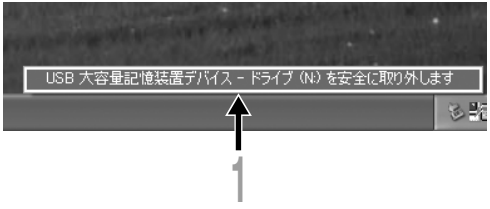
- 本機をパソコンと接続してDSS Playerをご利用になる場合、本機のメニュー設定でUSBクラス（☞P118）をストレージクラスにしてください。オーディオクラスで接続すると、本機をリムーバブルディスクドライブとして認識しません。
- USB接続ケーブルは必ず付属の専用ケーブルをご使用ください。他社製品をご使用した場合、故障の原因となりますので、絶対におやめください。またこの専用ケーブルを他社製品に接続することも絶対におやめください。

パソコンから外す

Windows

1 画面右下のタスクバーの をクリックし、[USB大容量記憶装置デバイス－ドライブを安全に取り外します]をクリックする

Windows Meでは[USBディスク－ドライブの停止]と表示します。
お使いのパソコンにより、ドライブのアルファベット表記が異なります。



2 USB接続ケーブルを外す

Macintosh

1 デスクトップに表示されている本機のドライブアイコンを、ドラッグ＆ドロップでゴミ箱に移動する

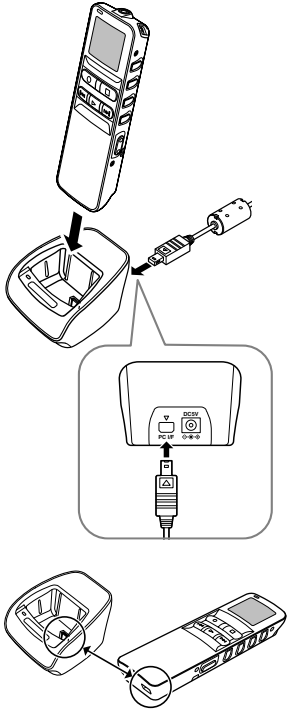
2 USB接続ケーブルを外す

ご注意

- 録音／再生表示ランプ点滅中は、絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。
- パソコンと接続すれば、付属のUSB接続ケーブルより電源が供給されますので、本機に電池やACアダプタからの電源供給は必要ありません。
- パソコンのUSBポートまたはUSBハブについては、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。
- USB接続ケーブルは、必ずパソコン本体のUSB ポートまたはセルフパワー（AC アダプタ接続）のUSBハブに接続してください。
- USB コネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されていないと正常に動作しません。
- ホールドスイッチは解除してください。

クレードルを使ってパソコンに接続する

クレードルを使って、本機の充電やパソコンへの高速データ転送が行うことができます。
なお、通常仕様品にクレードルは同梱されておりません。クレードルをご利用になる場合は、「充電クレードルセット（CR400）」を別途ご購入ください（☞ P124）。



クレードルに装着する

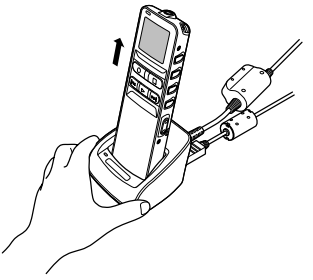
1 USB接続ケーブルをパソコンのUSBポートまたはUSBハブに接続する

2 クレードルにUSB接続ケーブルを接続してください。

クレードル接続ポートの△マークに合わせて、USB接続ケーブルの△マークを上向きに接続してください。

3 本機が停止していることを確認し、クレードルに装着する

USB接続中は、本機のディスプレイに「PC接続中ストレージクラス」と表示されます。



クレードルから取り外す

「パソコンから外す」（☞ P89）の手順 1 を行う。

データの破損または消失を防ぐため、本機の録音／再生表示ランプが点灯していないことを確認してから、クレードルから本機やUSB 接続ケーブルを外します。

ご注意

- 本機をパソコンと接続してDSS Playerをご利用になる場合、本機のメニュー設定でUSBクラス（☞ P118）をストレージクラスにしてください。オーディオクラスで接続すると、本機をリムーバブルディスクドライブとして認識しません。
- USB接続ケーブルは、必ずパソコン本体のUSBポートまたはセルフパワー（ACアダプタ接続）のUSBハブに接続してください。

DSS Player を起動する

Windows

本機をパソコンに接続すると自動的に DSS Player を起動できます。

自動起動の設定を停止する場合

1 画面右下のタスクバーの を右クリックし、[設定]を選ぶ

設定可能なアプリケーションをダイアログ表示します。

2 [DSS Player]の☑をクリックする

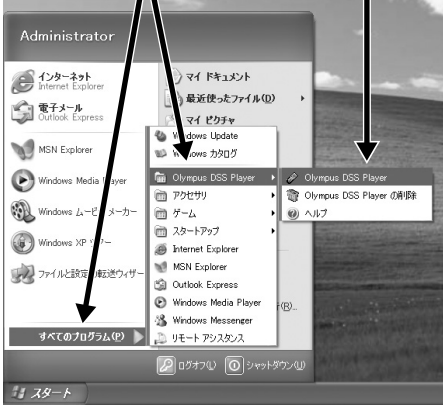
「DSS Player」についていたチェックが消えます。再び自動起動する場合はもう一度クリックしてチェックを入れてください。

手動で起動する場合

1 Windowsを起動する

2 [スタート]→[すべてのプログラム]→[Olympus DSS Player] の順に選ぶ

3 [Olympus DSS Player] をクリックする



ご注意

複数の DSS Player を同時に起動させることはできません。

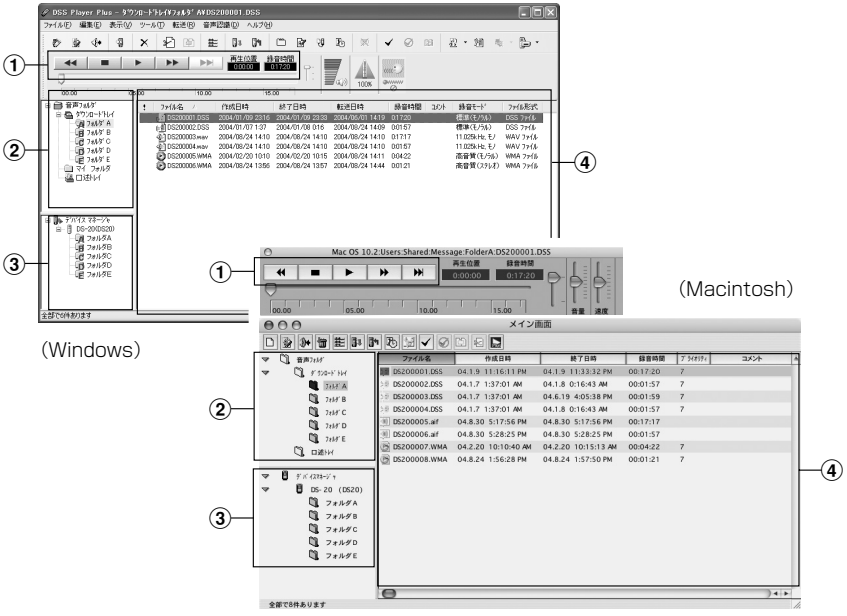
Macintosh

起動するにはインストール時に作成される「DSS Player」フォルダを開き、をダブルクリックします。
インストール後はじめて起動した場合，ユーザー情報の登録が必要です。詳しくは☞P84をご覧ください。

ご注意

Mac 版 DSS Player には自動起動機能はありません。

ウィンドウのなまえ（DSS Player）



＊DSS Player 起動時のメイン画面です

① 再生コントロールボタン
ファイルの再生や、停止など操作を行うボタンが配置されています。

② 音声フォルダウィンドウ
パソコン内のDSS、WMA、WAVE（Windowsのみ）、AIFF（Macintoshのみ）形式ファイルが入ったフォルダを階層表示します。

③ デバイスウィンドウ
本機内のフォルダを階層表示します。

④ 音声ファイル一覧ウィンドウ
②、③ で選択されているフォルダ内のファイルを表示します。

録音した音声をパソコンに取り込む

本機からファイルをパソコンに取り込むことをダウンロードと呼びます。DSS Playerでは、ファイルをパソコンにダウンロードする方法として次の3つがあります。

- 選択ファイルのダウンロード
  1 つ、または複数のファイルを選択してパソコンに取り込みます。
- フォルダ単位のダウンロード
  フォルダ内にあるすべてのファイルをパソコンに取り込みます。
- すべてのダウンロード
  ダウンロードアイコン をクリックして、本機にあるすべてのファイルをパソコンに取り込みます。

ここでは「選択ファイルのダウンロード」について説明します。「フォルダ単位のダウンロード」や「すべてダウンロード」については、オンラインヘルプをご覧ください。

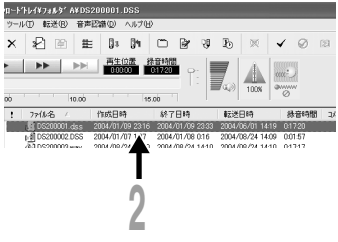
選択ファイルのダウンロード

1 フォルダを選ぶ

デバイスウィンドウでダウンロードしたいファイルが入ったフォルダを選びます。図では、フォルダAが選択されています。

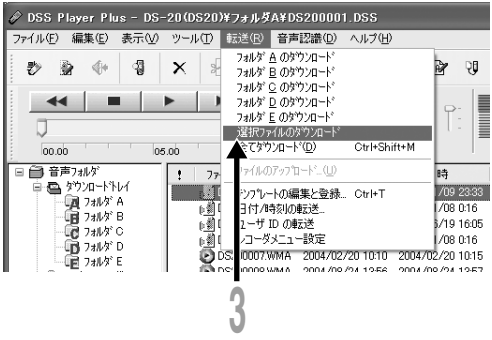
2 ファイルを選ぶ

音声ファイル一覧ウィンドウからダウンロードしたい音声ファイルを選択します。
複数選択する場合は、［Ctrl］ キーまたは［Shift］ キーを押しながら選びます。図では1つのファイルが選択されています。



3 ファイルをダウンロードする

(Windows)
[転送] メニューから [選択ファイルのダウンロード]をクリックします。
(Macintosh)
[ツール] メニューから [選択ファイルのダウンロード]をクリックします。



4 ダウンロードの完了

パソコンから通信中の画面が消えても、本機の録音／再生表示ランプが点滅中はデータを転送中ですので、USB接続ケーブルを外さないでください。
ＵＳＢ接続ケーブルを外す場合は、必ず☞P89に記載の方法で行ってください。ドライブを停止してから外さないと、正常にデータが転送されないことがあります。

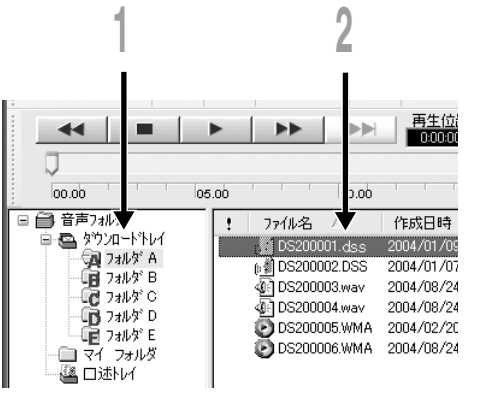
ご注意

- 録音／再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。
- ファイルのサイズやパソコンによってはダウンロードに時間がかかることがあります。
- ダウンロード先は、本機のフォルダと対応した、ダウンロードトレイのフォルダに保存されます。
  (例) 本機のフォルダAからダウンロードしたファイルは、パソコン上のダウンロードトレイのフォルダAに保存されます。
- 同じファイル名がすでにあるときは、録音日時が異なる場合のみ別のファイル名で保存されます。

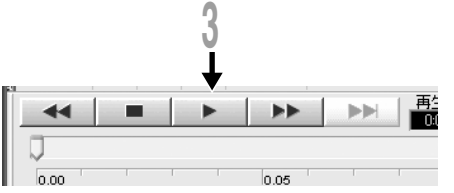
ファイルを再生する

1 フォルダを選ぶ
再生したいファイルが入っているフォルダを選びます。
図では取り込み済みのファイルを指定するため、音声フォルダウィンドウのフォルダAを選択しています。

2 ファイルを選ぶ
音声ファイル一覧ウィンドウから再生したいファイルを選びます。
図では「DS200001.dss」* ファイルが選択されています。



3 ファイルを再生する
再生コントロールバーの再生ボタン ▶ を押します。



その他の早戻し、早送り、停止、再生速度、音量、時間軸、インデックスマークスキップなどは、再生コントロールバーで操作できます。詳細については、オンラインヘルプをご覧ください。

＊DS20 0001.dss

拡張子：ステレオHQ、ステレオSP、HQモードで録音したファイルはWMA形式になり、拡張子がwmaにかわります。

ファイル番号：本機が自動的につける連続した数字。

ユーザ ID：本機に設定されたファイル名で初期値はDS20。
ユーザ IDは変更可能です（☞ P101）。

ファイルを本機に転送する

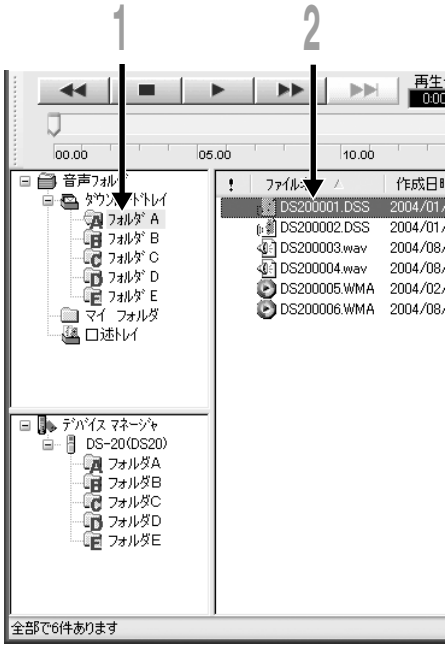
DSS Player には、パソコンにあるファイルを本機に転送（アップロード）する機能があります。

1 フォルダを選ぶ
音声フォルダウィンドウから、転送したいファイルの入っているフォルダを選びます。

2 ファイルを選ぶ
音声ファイル一覧ウィンドウから、転送したいファイルを選びます。

3 転送先フォルダを選ぶ
（Windows）
［転送］ メニューから ［ファイルのアップロード］ を選択、またはアップロードアイコンをクリックします。転送先フォルダー覧のウィンドウが表示されたら、転送先フォルダを選んでください。
（Macintosh）
［ツール］ メニューから ［アップロード］ をクリックします。転送先フォルダー覧のウィンドウが表示されたら、転送先フォルダを選んでください。

4 ファイルを転送する
ファイルが本機に転送されます。



5 アップロードの完了

通信中の画面が消え、本機の録音／再生表示ランプが消えたらアップロードの完了です。

音声ファイル一覧ウィンドウから転送したいファイルを選び、音声フォルダウィンドウのフォルダにドラッグ＆ドロップ (マウスの左ボタンを押したまま移動し、移動先でボタンを離す) して転送することもできます。

ご注意

- 録音／再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。
- 本機のフォルダ内に同じ名前のファイルがある場合は転送できません。

ファイルを E-mail で送信する

音声ファイルはハードディスク上の「Message」フォルダの中に保存されています。E-mailに添付して音声ファイル送信する場合には「Message」フォルダの中からファイルを選択してください。

「Message」フォルダの設定されている場所は、［ツール］メニューの［オプション］をクリックし、「ダウンロードフォルダ」の項目で確認できます。

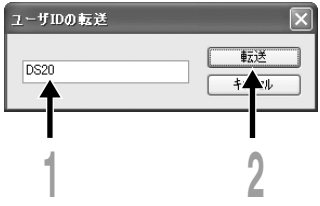
メールの受信相手にDSS Player がなくても、DSS Player-Lite を使えばファイルを再生できます。DSS Player-Lite はオリンパスホームページ、http://www.olympus.co.jp から無償でダウンロードできます。

本機のユーザ ID を変更する

本機で録音されるDSS形式（SP・LPモード）とWMA形式（ステレオHQ・ステレオSP・HQモード）のファイル名には、自動的にユーザIDがつけられます。

1 ［ユーザIDの転送］画面で、新たなIDを入力する
（Windows）［転送］メニュー内にあります。
（Macintosh）［ツール］メニュー内にあります。

2 ［転送］をクリックする
変更したユーザID名が本機に転送されます。



ご注意
録音／再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。

フォルダ名を変更する

音声フォルダウィンドウのフォルダ名を変更する

［ファイル］メニューの［フォルダ名の変更］コマンドを使用することで、フォルダ名を変更できます。フォルダ名は 20 文字まで入力可能ですが、半角の**¥/:∗?"<>|**は入力できません。

デバイスウィンドウのフォルダ名を変更する

（Windows）変更するフォルダ名を右クリックし［フォルダ名の変更］を選択、フォルダ名を入力します。変更したフォルダ名は本機のフォルダ名に反映されます。

（Macintosh）［ファイル］ メニューから ［フォルダ名の変更］を選択、フォルダ名を入力します。

デバイスウィンドウのフォルダ名として使用できる文字は、半角記号を除いた大小半角英数字、全角カタカナ、ひらがな、漢字、全角記号で全角６文字（半角 12 文字）以内です。

ご注意

- 録音／再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB 接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。
- DSS Playerを使用して、半角カタカナの入ったフォルダ名やコメントを入力しても、本機で表示されません。

コメントを編集する

DSS Player上のコメントは「コメントの編集」画面で編集し、本機へ転送することができます。本機から読み込んだコメントの編集も可能です。

「コメントの編集」画面は、[ツール]メニューから[コメントの編集]を選択してください。

入力できる文字数は全角50文字(半角100文字)以内です。

ご注意

- 録音／再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB 接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。
- DSS Playerを使用して、半角カタカナの入ったフォルダ名やコメントを入力しても、本機で表示されません。

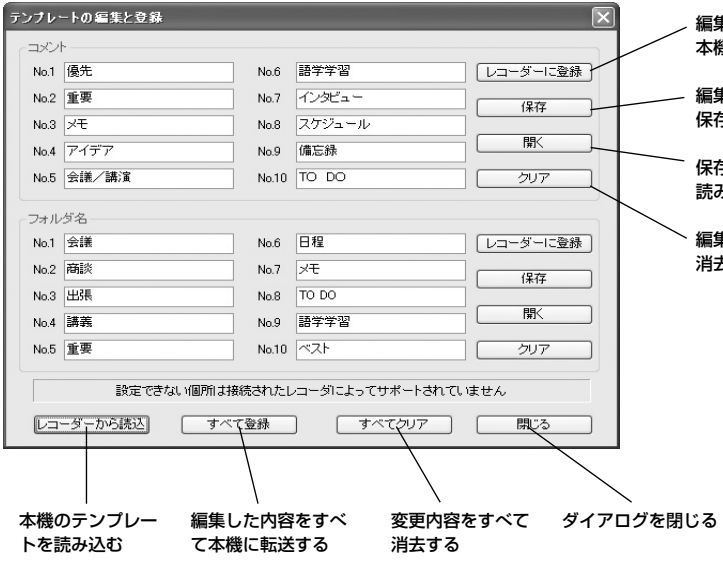
テンプレートを編集する

DSS Player上のフォルダ名・コメントのテンプレートは「テンプレートの編集と登録」画面で編集し、本機へ転送することができます。本機から読み込んだテンプレートの編集も可能です。

(Windows)[転送]メニューから[テンプレートの編集と登録]を選択してください。

(Macintosh)[ツール]メニューから[テンプレートの編集と登録]を選択してください。

使用できる文字は、半角記号を除いた大小半角英数字、全角カタカナ、ひらがな、漢字、全角記号で、入力できる最大文字数はフォルダ名が全角4文字(半角8文字)、コメントが全角10文字(半角20文字)です。



ご注意

- 録音／再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。
- DSS Playerを使用して、半角カタカナの入ったフォルダ名やコメントを入力しても、本機で表示されません。

USB マイク / スピーカとして使う

本機をパソコンと接続して、本機をUSBスピーカまたはUSBマイクとして使用することができます。USBスピーカとして本機を使用すれば、パソコンのスピーカを使用する代わりに本機によって音声を出力することができます。
また、本機をUSBマイクとして使用すれば、パソコンに音声を入力することも可能です。

オーディオ設定

DSS Playerで本機をUSBスピーカまたはUSBマイクとしてお使いいただくには、「ストレージ」クラスでパソコンと接続後、「オーディオ」クラスに切り替える必要があります。初めて切り替えた場合はドライバーがパソコンにインストールされます。
接続後、下記の設定を行ってください。

Windows

1 **ツールバーの アイコンをクリックし本機を[オーディオ]に切り換えます。**

Macintosh

1 **[ツール]メニューから、[オーディオ]を選択してください。**

USB スピーカとして使う

本機はUSB接続するとUSBスピーカとして機能させることができます。USBスピーカとして用いると、パソコンに付属のスピーカから音声出力をさせずに、本機から音声出力させることができます。

メニューバーの[ツール(T)]から「オーディオの選択」を選び、出力先を切り替えます。

USB マイクとして使う

本機はUSB接続するとUSBステレオマイクとして機能させることができます。また、DSS Player Plus へのアップグレード(☞P106)を行えば、音声認識ソフトや他のアプリケーションでも本機をマイクがわりにして、パソコンに音声を入力することができます。

Windows 2000,Me の場合

［コントロールパネル］→［(サウンドと) マルチメディア］→［オーディオ］タグを選び、録音デバイスから［USB オーディオデバイス］を選択します。

Windows XP の場合

［コントロールパネル］→［サウンド、音声およびオーディオデバイス］→［サウンドとオーディオデバイス］→［オーディオ］タグを選び、録音デバイスから［Microphone Control (DVR)］を選択します。

ご注意

- 本機のメニュー設定でUSBクラスがオーディオクラスに設定されていると、本機をリムーバブルディスクドライブとして表示しません。ストレージクラスに設定し直してから、パソコンと接続してください。
- USB スピーカの切り替えは、USB マイクと同様に［コントロールパネル］からもできます。
- USBマイクとして使用する場合は本機の録音モードに関係なく、USBステレオマイクとなります。本機と外部マイクを接続する場合は、ステレオマイクをご利用ください。

Plus アップグレード機能

「DSS Player」は、より高い機能を備えた「DSS Player Plus」へのアップグレード（有償）が可能です。「DSS Player」の機能に加え、音声認識ソフトを使っての音声認識や、ファイルの結合、ファイルの分割、本機のメニュー設定などがご利用いただけます。

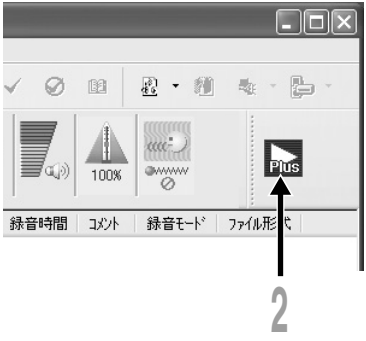
ご購入およびアップグレードのしかた

「DSS Player Plus」を購入し、「DSS Player」からアップグレードするには、以下の手順で操作します。

Windows Macintosh

1 DSS Playerを起動します。
起動方法は☞ P93をご覧ください。

2 Plusボタンをクリックするか、[ヘルプ]メニューの[DSS Player Plusの購入]を選択する
ウェブブラウザが起動し、DSS Player Plusの購入サイトが表示されます。画面の案内にしたがって操作してください。
購入完了後、画面上またはメールによりライセンス番号が発行されます。



3 [ヘルプ]メニューから、[DSS Player Plusへのアップグレード]を選択する

[DSS Player Plusへのアップグレード]ダイアログが表示されます。

4 [DSS Player Plusへのアップグレード]ダイアログに購入したライセンス番号を入力し、[OK]ボタンをクリックする

次回起動時に、DSS Player Plusへのアップグレードが行われ、DSS Player Plusとしてご利用いただけます。

「DSS Player Plus」へのアップグレードを確認するには

メインメニューのタイトルがDSS Player Plusに変わります。または各ウィンドウのツールボタン内の［ヘルプ］メニューの［バージョン情報］を選択し、DSS Player Plus が表示されることを確認します。

ご注意

- ライセンス番号の購入には、インターネットが利用できる環境が必要です。ご利用できない場合はカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- ライセンス番号のご購入につきましては、ウェブサイト内の詳細をご覧ください。

Plus 音声認識ソフトを使う

市販されているIBM社の「ViaVoice」またはジャストシステム社の「Voice 一太郎」とあわせてお使いになると、本機で録音したファイルをパソコンに転送し、文字変換させることができます。詳細については音声認識ソフトの取扱説明書をご覧ください。

本機との対応が確認されている音声認識ソフトは下記のとおりです。（2004年9月現在）

日本IBM社

- IBM ViaVoice for windows, Standard/Pro/Premium V10

ジャストシステム社

- Voice 一太郎 11

今後リリースされるソフトウェアの対応状況については、弊社カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください（☞ P127）。
また、これらのソフトウェアを本機との組み合わせでご使用になる場合は、お使いのパソコンでの動作を各ソフトのメーカーにご確認ください。

- 音声認識ソフトViaVoice に関するお問い合わせは、ViaVoice 製品に同梱されている「IBM PC ソフトウェア・サービスのご案内」にしたがって日本アイ・ビー・エム株式会社の窓口でサポートをお受けください。
- Voice 一太郎に関するお問い合わせは、Voice 一太郎製品に同梱されているガイド「まずはじめにお読みください」にしたがって、株式会社ジャストシステムの窓口でサポートをお受けください。

ご注意

音声認識機能が使えるのは Windows 版だけです。

オーディオセットアップ

DSS Player PlusとIBM社の音声認識ソフト「ViaVoice」を一緒にお使いいただく場合、スピーカや内蔵マイクから取り込まれる音声を正確に録音するために、以下の手順で設定を行ってください。

1 **本機とパソコンを接続しDSS Player Plusを起動する**

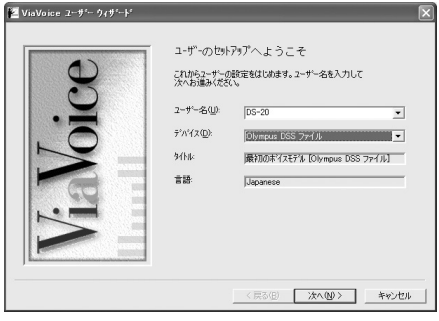
2 **本機を[オーディオ]クラスに切り替える**
[オーディオ]クラスへの切り替えについては ☞P118をご覧ください。

3 **[スタート]ボタンをクリックし、[プログラム]→[IBM ViaVoice VoiceCenter]の順に選ぶ**

4 **[IBM ViaVoice VoiceCenter]から、[ViaVoice][ツール]を選択し、ViaVoiceユーザーウィザード画面を表示させる。**

5 **[デバイス]のリストボックスから、[ＤＳＳファイルの認識]または[WMAファイルの認識]を選択する**

6 **[次へ]ボタンをクリックする**
オーディオセットアップウインドウが表示されます。



7 サウンドカードの選択

[サウンドカードの選択]画面が表示されたら[入力]に[USBオーディオデバイス]を選択し、画面の指示に従います。(XPでは[Microphone Control (DVR)]を選択します。)

8 画面の指示にしたがってオーディオセットアップを続けます。

オーディオセットアップやエンロール中に音声入力するときは、そのままの状態で本機から音声入力してください。

本機やファイルを使用して音声認識を行う前に、本機を使った環境のエンロールを行うことをおすすめします。これによりあなたの声の特徴が登録され、認識率を向上させることができます。

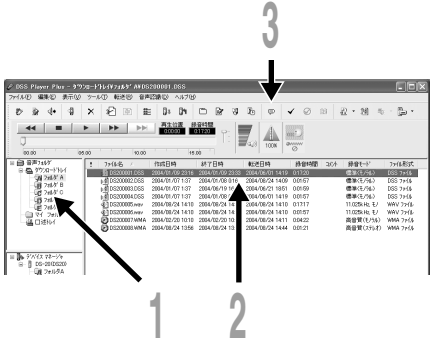
音声認識の実行

DSS Player Plusは、メニューからViaVoiceに簡単にアクセスすることができ、音声ファイル一覧ウィンドウにあるファイルの認識が可能です

1 フォルダを選ぶ
音声フォルダウィンドウから、音声認識させたいファイルを選びます。

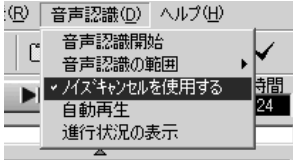
2 音声ファイルを選ぶ
音声ファイル一覧ウィンドウから音声認識させたいファイルを選びます。

3 音声認識の開始
音声認識開始アイコン をクリックします。
音声認識ソフトのウインドウが表示され、音声認識が開始されます。



ノイズキャンセルについて

メニューバー［音声認識（D)］内にある［ノイズキャンセルを使用する］にチェックを入れることで、ノイズキャンセル機能を効かせた音質を音声認識ソフトに出力することができます。



ご注意
LPモードで録音したファイルの音声認識はできません。

音声認識を目的とした録音について

本機を使用して、音声認識を目的とした録音をするときは、次のようなことに十分注意して録音してください。

- 本機のメニュー設定でマイク感度を「口述」にする
- 録音モードを「LP」以外に設定する
- 音声起動録音（VCVA）モードを「OFF」にする
- 音声認識ソフトに声を登録した 1 人の話し手が録音する
- 比較的静かな環境で録音する
- 本機の内蔵マイクと話し手の口を近づけて（5 ～ 10cm）録音する
- 一定の話しかたで録音する
- 周囲の雑音の影響を軽減して、ご自身の声を録音したい場合は、録音モードを「HQ」または「SP」に設定し、口述録音用マイク ME12 をご利用ください。

次のような条件で録音したファイルは認識率が低く、音声認識にはお使いいただけません。

- 複数の人の声が録音される、会議や座談会など
- まわりの雑音も録音されやすい、講演会や講義など

Plus ファイルを結合する

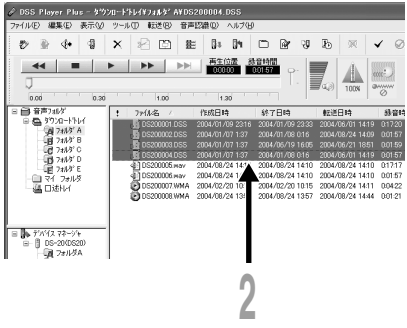
DSS Player Plusでは、指定した複数の音声ファイルを結合して１つの音声ファイルを作成することができます。

1 フォルダを選ぶ

音声フォルダウィンドウから、結合したいファイルの入っているフォルダ選びます。

2 音声ファイルを選ぶ

音声ファイル一覧ウィンドウから結合したいファイルを複数選びます。



3 [編集]メニューから[結合]を選択、または ボタンを押す

ファイルの結合ダイアログが表示され、手順2で選択したファイルを一覧表示します。

4 結合する順番を選ぶ

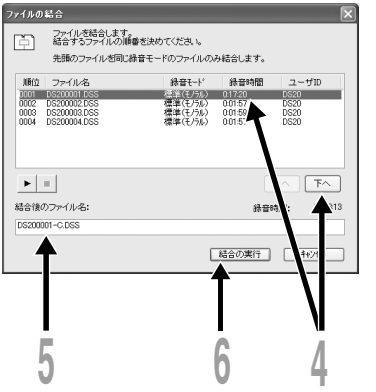
結合後の再生順序を変えることができます。ファイルを選択し、[上へ][下へ]ボタンを押して、順序を入れ替えてください。

5 ファイル名を入力する

結合後のファイル名は自動生成しますが、任意で入力することも可能です。

6 [結合の実行]ボタンを押す

同一フォルダ内に手順5で指定したファイル名で保存されます。



ご注意

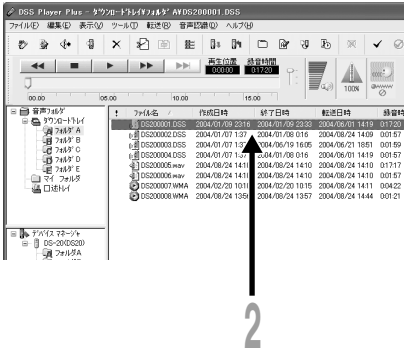
結合するファイルの録音モードが異なる場合は、先頭に表示されているファイルの録音モードで結合されます。

Plus ファイルを分割する

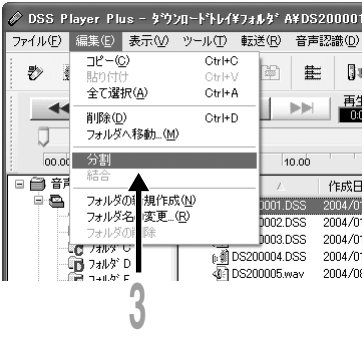
DSS Player Plus では、指定した 1 つの音声ファイルを 2 つのファイルに分割することができます。

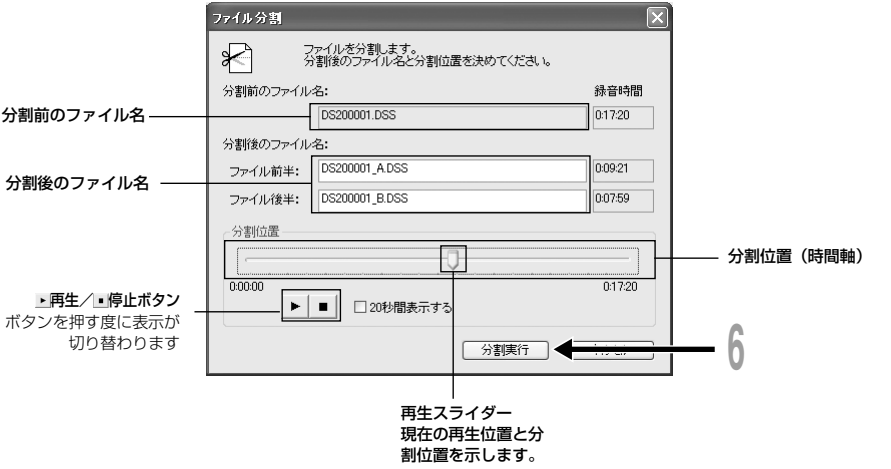
1 フォルダを選ぶ
音声フォルダウィンドウから、分割したいファイルの入っているフォルダ選びます。

2 音声ファイルを選ぶ
音声ファイル一覧ウィンドウから分割したいファイルを一つ選びます。



3 [編集]メニューから[分割]を選択する、または ボタンを押す
ファイル分割の設定ダイアログが表示されます。





4 分割位置を設定する

▶ ボタンを押してファイルを再生し、分割したい位置で ■ ボタンを押します。
また、時間軸上での再生スライダーの位置は、現在の再生位置を示すとともに、分割位置を示しています（再生スライダーを左右にスライドさせて、分割したい位置へ移動させることも可能です）。

5 ファイル名を入力する

分割後のファイル名は自動生成しますが、任意で入力することも可能です。

6 [分割実行]ボタンを押す

ファイルの分割が完了し、手順5で指定したファイル名で保存されます。

Plus 本機のメニューを設定する

本機のメニュー設定をパソコン上の「レコーダメニューの設定」画面で変更することができます。

1 [転送]メニューから[レコーダメニュー設定]を選択する

レコーダメニュー設定のダイアログ表示されます。

2 メニュー設定を行う

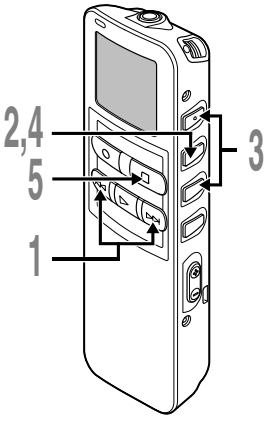
変更したいラジオボタンをクリックし、チェックを入れます。

3 [OK]ボタンを押す

設定内容が本機に転送されます。
終了後、パソコンと本機のUSB接続を外すと、本機のメニュー設定が変更されます。

USBクラス（USB CLASS）の切り替え

音声認識ソフトや他のアプリケーションなどで，本機をUSBマイクやUSBスピーカとしてご使用になる場合、本機のUSBクラスを「USBオーディオ」クラスに設定する必要があります。USBマイク機能を使うことで、音声認識ソフトのエンロール（＝音声を学習させる）作業が可能になります。



1 サブメニュー画面で▼または▲ボタンを押して「ＵＳＢクラス」を選ぶ

サブメニューについては☞ P75、77をご覧ください。

2 決定ボタンを押す

USBクラスの設定を始めます。

3 ▼または▲ボタンを押して「オーディオ」を選ぶ

4 決定ボタンを押して設定を完了する

5 停止ボタンを押してサブメニュー画面を終了する

オーディオクラスに切り替え初めて本機をパソコンに接続すると、ドライバがパソコンに自動的にインストールされます。オーディオクラスでパソコンに接続中は本機のディスプレイに「PC接続中オーディオクラス」と表示されます。

パソコンの外部メモリとして使う

音声レコーダーとしての使いかたの他に、本機はパソコンの外部メモリとして、パソコンからのデータ保存や読み出しにもご使用できます。
本機とパソコンを接続すれば、本機のデータをパソコンへ転送したり、パソコンに保存されたデータを本機に保存することが可能です。

たとえば、エクスプローラやファインダでパソコンのデータをコピーする

1 **パソコンを起動する**

2 **本機をパソコンに接続する**
接続方法は、「パソコンに接続する」をご覧ください(☞ P88)。

3 **エクスプローラまたはファインダを起動する**
本機がリムーバブルディスクとして表示されます。

4 **データをコピーする**
データの読み書きやコピーなど、アクセス中は本機の録音／再生表示ランプが点滅します。

本機をパソコンから外す場合は「パソコンから外す」をご覧ください（☞ P89)。

ご注意
録音／再生表示ランプが点滅中は、絶対にUSB接続ケーブルを抜かないでください。データが破損する可能性があります。

警告表示一覧

表示	詳細	解決方法
電池残量がありません （BATTERY LOW）	電池残量がない	充電するか新しい電池に交換してください（☞ P13,14）
消去できません （LOCK ON）	消去ロックがかかっているファイルを消去しようとした	消去ロックを解除してください（☞ P57）
これ以上記録できません （インデックスマークをつけるとき） （INDEX FULL）	ファイル内でインデックスマークを最大数（16）まで使っている	必要のないインデックスマークを消去してください（☞ P58）
インデックス未対応ファイルです （INDEX CAN'T BE ENTERED）	音楽ファイルや本機以外で録音したWMA ファイルにインデックスマークをつけようとした	本機またはオリンパス製ICレコーダーで録音した音声ファイルに限りインデックスマークがつけられます
これ以上記録できません （録音するとき） （FOLDER FULL）	フォルダ内のファイル件数が最大数（199）になっている	必要のないファイルを消去してください（☞ P53）
文字数オーバーです （OVER FLOW）	入力可能な文字数を超えている	制限文字数以内でもう一度入力し直してください
件数オーバーで移動できません （FOLDER FULL）	移動先フォルダ内のファイル件数が最大数（199）になっている	必要のないファイルを消去してください（☞ P53）
メモリーに異常があります （MEMORY ERROR）	内蔵フラッシュメモリに異常がある	当社カスタマーサポートセンターにご連絡ください（☞ P127）
メモリーに問題があります （MEMORY TROUBLE）	内蔵フラッシュメモリに問題があります	当社カスタマーサポートセンターにご連絡ください（☞ P127）
不正コピーされたファイルです （LICENCE MISMATCH）	不正にコピーされた音楽ファイルです	ファイルを消去してください
メモリーがいっぱいです （MEMORY FULL）	内蔵フラッシュメモリ残量がない	必要のないファイルを消去してください（☞ P53）

表示	詳細	解決方法
メモリー不足です 設定を続けますか （タイマー録音を設定するとき） **(MEMORY FULL, CONTINUE?)**	予約した時間を録音できるメモリ残量がない	「続ける」選択するか、「戻る」を選択して再設定してください（☞ P34） 「戻る」を選択した場合は必要のないファイルを消去するなど、必要なメモリ残量を確保してから、もう一度設定し直してください
開始／終了時刻の 設定が同じです (START/END TIMESETTING CAN'T BE THE SAME)	タイマー録音の開始と終了に同じ時刻を設定した	設定し直してください
ファイルがありません (NO FILE)	フォルダ内にファイルがない	フォルダを選び直してください
初期化に失敗しました (FORMAT ERROR)	初期化に問題があった	メモリを再フォーマットしてください（☞ P72）
同じ名前のファイルがあります (SAME FILE)	フォルダ内にあるファイルと同名のファイルを作成または保存しようとした	ファイル名を変更してください
SYSTEM ERROR	本機のシステムに異常がある	故障ですのでお買い上げの販売店または当社のサービスステーションに修理をご依頼ください（☞ P127）

故障かな？と思ったら

症状	考えられる原因	対処方法
ディスプレイに何も表示されない	電池が正しく入っていない	電池の ⊕ ⊖ を確かめてください
	電池が消耗している	充電するか新しい電池に交換してください（☞ P13,14）
	ホールドがかかっている	ホールドを解除してください（☞ P20, 69）
操作できない	ホールドがかかっている	ホールドを解除してください（☞ P20, 69）
	電池が消耗している	充電するか新しい電池に交換してください（☞ P13,14）
録音できない	メモリ残量がない	必要のないファイルを消去してください（☞ P53）
	ファイル番号が最大記録件数になっている	別のフォルダを確認してみてください
再生音が聞こえない	イヤホンが接続されている	内蔵スピーカでの再生時はイヤホンを外してください
	音量が 0 になっている	ボリュームを調節してください
設定したスキップ間隔で逆スキップしない	少し前再生が「ON」になっている	メニュー設定で少し前再生を「OFF」にしてください（☞ P46）
消去できない	消去ロックがかかっている	消去ロックを解除してください（☞ P57）
再生時に雑音がする	録音時に本機をこすったりした	—
	録音時、再生時に本機を携帯電話や蛍光灯の近くに置いている	操作時に本機の位置を変えてみてください
録音のレベルが小さい	マイク感度が低い	マイク感度を「会議」にしてもう一度録音してみてください（☞ P29）
インデックスマークがつけられない	インデックスマーク件数が最大（16 件）になっている	必要のないインデックスマークは消去してください（☞ P58）
	消去ロックがかかっている	消去ロックを解除してください（☞ P57）

症状	考えられる原因	対処方法
録音した音声ファイルがない	録音したフォルダではない	フォルダボタンでフォルダを切り替えてください
再生スピードが変わらない	ノイズキャンセル機能が「LOW」か「HIGH」になっている	ノイズキャンセル機能の設定を「OFF」にするか、通常再生に戻してください（☞ P49）
クレードルを使ってパソコンと接続できない	USB クラスの設定が「オーディオ」になっている	本機のメニュー設定で USB クラスを「ストレージ」にしてください（☞ P118）
AC アダプタで動作しない	専用でないアダプタをクレードル（充電器）に接続した	専用アダプタ（A511）をご利用ください

アクセサリー（別売）

ステレオマイクロホン：ME51SW
ステレオならではの臨場感のある録音ができます。しかもWMA形式でノイズの少ないクリアな音質が得られます。

単一指向性モノラルマイクロホン：ME12
（口述録音用マイク）
周囲の雑音の影響を軽減して、ご自身の声を録音したい場合に使用します。

充電クレードルセット：CR400
DS-20専用充電クレードル（CR4）、ニッケル水素充電池パック（BR402）、ACアダプタ（A511）、ACケーブルのセットです。

単４形ニッケル水素充電池／充電器セット：BC400
ニッケル水素充電器（BU-400）と単４形ニッケル水素充電池（BR401）４本組セットです。オリンパス製の単3、単４形ニッケル水素充電池を急速充電できます。

ニッケル水素充電池パック：BR402
DS-20と併用して、クレードル／USB充電が可能な高性能充電池です。

単４形ニッケル水素充電池：BR401
持続性に優れた高性能充電池です。ニッケル水素充電器（BU-400）での充電が可能です。なお、DS-20でのクレードル／USB充電はできません。

用語の説明

用語	意味
ボイストレック	オリンパス イメージング製 IC レコーダーの総称です。
メモリ	内蔵のフラッシュメモリのことを指します。
音声ファイル	本機で録音した用件のことを音声ファイルと呼びます。
停止状態	本機が録音、再生などの動作をしていない状態をさします。
ビットレート	1 秒間あたりに処理されるデータ量のことです。圧縮率を示すこの数値が高いほど音質は良くなりますが、ファイルの容量が大きくなります。
フォルダ	ファイルを分類して録音するための機能（入れ物）です。
キュー（CUE）	早送り再生のことです。
レビュー（REVIEW）	早戻し再生のことです。
VCVA	設定より大きな音を感知すると自動的に録音を開始し、音が小さくなると停止する音声起動録音の略称です。
録音モード	録音の用途に合わせて選択可能な録音方式のことです。
消去ロック	誤消去を防止するための機能で、各ファイルごとに設定可能です。
インデックスマーク	音声ファイル中のどこにでもつけられる頭出し信号のことです。
アラーム再生	指定した時刻にアラーム音が鳴り、アラーム音が鳴っている間にボタンを押すと設定したファイルを再生する機能です。
BEEP（ビープ）音	ボタンを操作したときの確認音や警告音のことです。
フォーマット	初期化とも言います。
USB 接続	本機とパソコンを接続するための方法です。 接続にはパソコン側に USB 端子が必要です。
クレードル	本機とパソコンをつなぐ卓上ホルダーのことで、USB 接続ケーブルを使ってデータ転送を行ったり、充電池の充電時に使用します。

主な仕様

記録形式 DSS（Digital Speech Standard）形式
WMA（Windows Media Audio）形式
規定入力レベル − 70dBv
サンプリング周波数
ステレオ HQ モード: 44.1kHz
ステレオ SP モード: 44.1kHz
HQ モード : 44.1kHz
SP モード : 12kHz
LP モード : 8kHz
総合周波数特性 ステレオ HQ モード :
100 ～ 17,000Hz
ステレオ SP モード :
100 ～ 8,000Hz
HQ モード : 100 ～ 7,000Hz
SP モード : 200 ～ 5,000Hz
LP モード : 200 ～ 3,000Hz
記録時間 ステレオ HQ モード :
約 2 時間 10 分
ステレオ SP モード :
約 4 時間 20 分
HQ モード : 約 8 時間 45 分
SP モード : 約 20 時間 55 分
LP モード : 約 44 時間 45 分
アルカリ電池持続時間
録音 :（ステレオ）約 15 時間
（モノラル）約 18 時間
再生 :（ステレオ）約 10 時間
（モノラル）約 11 時間

ニッケル水素充電池パック持続時間
録音 :（ステレオ）約 12 時間
（モノラル）約 14 時間
再生 :（ステレオ）約 8 時間
（モノラル）約 9 時間
記録媒体 内蔵型フラッシュメモリ 128MB
スピーカ φ 23mm 丸型ダイナミックスピーカ内蔵
マイクジャック φ 3.5mm 小型ジャック、インピーダンス 2kΩ
イヤホンジャック φ 3.5mm 小型ジャック、インピーダンス 8Ω 以上
スピーカ実用最大出力（DC3V）
200mW 以上（スピーカ 8Ω）
電源 定格電圧 : 3V
電池 : 単 4 形電池 2 本（LR03 または R03）
ニッケル水素充電池パック（BR402）
外部電源 : AC アダプタ（A511）
外形寸法 122 × 37.5 × 17.5mm
（最大突起部含まず）
質量 80g（アルカリ電池含む）
同梱品 本体
ステレオイヤホン (E30)
USB 接続ケーブル（KP18）
ダビング用コネクティングコード（KA333）
CD-ROM
専用ネックストラップ
取扱説明書（保証書付）
クイックマニュアル
オリンパス サービスステーションリスト

〈充電クレードルセット同梱仕様品（DS-20F）のみの同梱品〉

充電クレードル（CR4）
ニッケル水素充電池パック（BR402）
ACアダプタ（A511）
ACケーブル

〈通常仕様品のみの同梱品〉：

単４形アルカリ電池×２

※ 本機の仕様および外観は性能改良などのため、予告なく変更する場合がありますので予めご了承ください。
※ 電池持続時間は当社試験法によるものです。使用電池・使用条件により大きく変ります。

アフターサービスについて

お買い上げいただきました本機を安心してご愛用いただくために当社では、次のアフターサービス体制をとっております。

● 製品に関するお問い合わせは

オリンパス カスタマーサポートセンター
Tel：フリーダイヤル 0120－084215
携帯電話・PHS：0426－42－7499
Fax：0426－42－7486
サポート時間：
平日／AM 9:30～PM 9:00
土・日・祝日／AM 10:00～PM 6:00
（年末年始、システムメンテナンス日を除きます）
〒192-8507　東京都八王子市石川町2951

オリンパス ホームページ

http://www.olympus.co.jp でICレコーダー（ボイストレック）および関連製品の技術情報を提供しております。

● 製品の修理に関してはお買い上げ店か、お近くのオリンパス サービスステーションにお問い合わせください。当社では本機の補修用修理部品は、製造打ち切り後6年間をめやすに保有しております。したがいまして上記期間中は、原則として修理をお受けいたします。また期間後であっても修理可能の場合もあります。

● なお保証期間経過後の修理は有料となります。また、保証期間中でも運賃など諸費用は、お客様にご負担をお願いいたします。製品を送る場合は、必ず書留小包または宅配便をご利用ください。

＜保証規定＞

1. この保証書は、取扱説明書、品質表示ラベル等の注意書にしたがった正常なお取扱いにより発生した故障に対して、お買い上げ日から満一年間、当社が無料修理の責任を負うことを保証するものです。
2. 有効期間内に故障して無料修理を受けられる場合は、商品と本書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店又は当社サービスステーションに依頼してください。
3. 販売店、または当社サービスステーションにご持参いただくに際しての諸費用は、お客様にご負担願います。製品を送る場合は、必ず書留小包または宅配便をご利用ください。また販売店と当社間の運賃諸掛につきましては、輸送方法によって（問屋便以外を使用した場合）一部ご負担いただく場合があります。
4. ご転居、ご贈答品等でお買い上げ販売店に依頼できない場合は、別紙の最寄りのサービスステーションにお問い合わせください。
5. この保証書は、本書に明示した期間、条件の元において無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書は、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。
6. 本製品の故障に起因する付随的損害（録音、再生に要した諸費用及び録音、再生により得べかりし利益の損失等）については保証致しかねます。
7. 保証期間内でも次のような場合には有料修理になります。
   - イ. ご使用上の誤り及び当社サービスステーション及び指定する修理取扱い所以外で行われた修理・改造・分解・掃除等による故障。
   - ロ. お買い上げ後の輸送、落下等による故障及び損傷。
   - ハ. 火災・異常電圧・地震・水害・落雷・公害・その他、天災・地変による破損又は故障。
   - ニ. 本書のご提示がない場合。
   - ホ. 本書にお買い上げ年月日、シリアルナンバー、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合。
   - ヘ. 電池等の消耗品による故障。
8. 保証の対象は本体のみです。

＜保証書取扱い上の注意＞

本書は日本国内においてのみ有効です。
(THIS WARRANTY CARD IS VALID ONLY IN JAPAN)
販売店名およびお買い上げ年月日が記載されていることを確認してください。記入もれがあった場合は直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。

＜保証責任者・保証履行者＞

オリンパス イメージング株式会社
〒 163-0914 東京都新宿区西新宿 2-3-1 新宿モノリス

保証書

本書は、本書記載内容で無料修理を行なうことをお約束するものです。お買い上げの日から 1 年以内に故障した場合は本書をご提示の上お買い上げの販売店または当社サービスステーションに修理をご依頼ください。

	無料修理保証期間	部品代	修理工料
本体	1 年	無料	
品名	ボイストレック	型名	DS-20
ボディーNo.		お買い上げ日	年 月 日
お客様	住所 〒 TEL 氏名	無効	様
販売店名			

J1-BZ8072-01
AP0409